国家公務員共済組合連合会 立川病院

内科専門研修プログラム

（2027 年度版）



TACHIKAWA
HOSPITAL

立川病院　内科専門研修プログラム

＜目次＞

① 理念・使命・特性
② 募集専攻医数
③ 専門知識・専門技能とは
④ 専門知識・専門技能の習得計画
⑤ プログラム全体と各施設におけるカンファレンス
⑥ リサーチマインドの養成計画
⑦ 学術活動に関する研修計画
⑧ コア・コンピテンシーの研修計画
⑨ 地域医療における施設群の役割
⑩ 地域医療に関する研修計画
⑪ 内科専攻医研修（モデル）
⑫ 専攻医の評価時期と方法
⑬ 専門研修管理委員会の運営計画
⑭ プログラムとしての指導者研修（ＦＤ）の計画
⑮ 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
⑯ 内科専門研修プログラムの改善方法
⑰ 専攻医の募集および採用の方法
⑱ 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
○ 立川病院内科専門研修施設群
○ 専門研修施設群の構成要件
○ 専門研修施設（連携施設）の選択
○ 専門研修施設群の地理的範囲
○ 専門研修基幹施設
○ 専門研修連携施設
○ 立川病院内科専門研修プログラム管理委員会

① 理念・使命・特性

【理念】【整備基準 1】
立川病院　内科専門研修プログラムは、東京都北多摩西部二次医療圏の中心的な急性期病院である国家公務員共済組合連合会　立川病院を基幹施設として、大学病院、専門病院、地域基幹謬院、地域密着型病院など多彩な施設と連携し内科領域全般に渡る研修を通じ全人的医療を実践できる内科医の育成を行います。
本プログラムは、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般に渡る研修を専門研修施設群の豊富な指導医・症例の中で行い標準的かつ全人的な内科医療の実践に必要な知能と技能とを修得します。

【使命】【整備基準 2】
超高齢社会を迎えた日本の医療を支える内科専門医として、「質の高い思いやりのあるチーム医療を実践（立川病院の理念）」できる研修を行います。将来の医療の発展のため、自らの臨床を常に振り返らせ何を学ぶ必要があるかを考えさせリサーチマインドを養成します。

【特性】
プログラムにおける研修期間は、基幹施設 1 年間以上＋連携施設 1 年間以上で計 3 年間としています。基幹施設の立川病院は、地域における中心的な急性期病院であるとともに病診・病病連携の中核で、コモンディジーズから複雑な病態を持った患者の診療まで経験できます。大学病院、専門病院、地域密着型病院など多彩な連携施設を用意し、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行わせることで内科専門医に求められる役割を研修出来るようプログラムされています。プログラムでは、ただ症例を経験するということだけではなく、主担当医として「入院から退院まで」の可能な範囲で経時的に診断・治療の流れを通じて一人一人の患者の全身状態・社会的背景・療養環境調整を研修し、個々の患者に最適な医療を提供する能力の修得をもって研修目標への到達とします。

【専門研修後の成果】【整備基準 3】
内科専門医の使命は、1)高い倫理観 2)最新の標準的医療の実践 3)安全な医療の提供 4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療の展開　することにあります。本プログラムは、専門研修後に内科専門医としての使命を実践し国民の信頼を獲得できる専門医を輩出することをもって成果とします。

② 募集専攻医数

【整備基準 27】

下記 1)～3)によりプログラムでの募集内科専攻医数は 1 学年 3 名とします。

（募集人数は予定です。日本内科学会および日本専門医機構の審査により変更になる場合があります）

立川病院　内科新入院患者数（人/年）

総合内科	569
消化器	1396
循環器	526
内分泌	70
代謝	300
腎臓	267
呼吸器	962
血液	637
脳神経	606
アレルギー	30
膠原病	30
感染症	600
救急	1301

（2025.4.1～2026.3.31）

1)日本内科学会指導医数は 27 名（2026.4 時点）です。

2)内科剖検体数は 2025 年度 9 体でした。

3)研修する連携施設には，大学病院、専門病院、地域基幹病院、地域医療密着型病院など揃え、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能と考えています。

(参考)

地域がん診療連携拠点病院（国指定）、地域医療支援病院、東京都災害拠点病院、東京都地域救急医療センター、東京都 CCU ネットワーク加盟機関、東京都脳卒中急性期医療機関、第二種感染症指定病院、東京都認知症疾患医療センター、東京都地域周産期連携病院、難病医療協力医療機関、などの行政指定を受けております。

③ 専門知識・専門技能とは

専門知識【整備基準 4】

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」「消化器」「循環器」「内分泌」「代謝」「腎臓」「呼吸器」「血液」「神経」「アレルギー」「膠原病および類縁疾患」「感染症」ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」「病態生理」「身体診察」「専門的検査」「治療」「疾患」などを目標（到達レベル）とします。
＊「内科研修カリキュラム項目表」は下記リンクを参照下さい。
http://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2015/08/2015-curriculum.pdf

専門技能【整備基準 5】
内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。
*「技術・技能評価手帳」は下記リンクを参照下さい。
http://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2015/08/2015-gijutsu.pdf

④ 専門知識・専門技能の習得計画

到達目標【整備基準 8～10】
主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。
*「研修手帳（疾患群項目表）」は下記リンクを参照ください。
http://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2015/08/2015-log.pdf

〇専門研修（専攻医）１年:
症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します。
技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

〇専門研修（専攻医）２年:
症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾

患群、120 症例以上の経験をし J-OSLER にその研修内容を登録します。
専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

〇専門研修（専攻医）３年:
症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会 J-OSLER にその研修内容を登録します。
専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合はその年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また，内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

立川病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設１年間以上＋連携１年間以上）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を１年単位で延長することを考慮します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます。

臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程により専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
定期的（毎週 1 回）に開催する内科あるいは他科との合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
総合内科外来（初診を含む）の担当医として経験を積みます。
救急外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。
当直医として病棟急変などの経験を積みます。
要に応じて Subspecialty 診療科検査を担当します。

臨床現場を離れた学習【整備基準 14】
１）内科領域の救急対応、２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、４）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、５）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて以下の方法で研鑽します。
定期的に開催する各診療科での抄読会
医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（立川病院 2025 年度実績 12 回）
CPC（立川病院 2025 年度実績 5 回）
研修施設群合同カンファレンス（2018 年より年 2 回開催）
地域参加型のカンファレンス（基幹施設：学術集談会、東京都北多摩西部二次医療圏地域救急医療合同カンファレンス、立川地区生活習慣病カンファレンス、多摩地域呼吸器内科合同カンファレンス、立川救急症例検討会など実施）
JMECC 受講
国家公務員共済組合連合会シュミレーションラボセンターで開催
内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに１回受講予定
内科系学術集会（「７．学術活動に関する研修計画」参照）
各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会　　など

自己学習【整備基準 15】】
「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している。実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。
自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します。
内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
日本内科学会雑誌にある MCQ
日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題　　など

研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】
・J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。
専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
専攻医による逆評価を入力して記録します。
全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

⑤ プログラム全体と各施設におけるカンファレンス

【整備基準 13,14】
立川病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した「立川病院内科専門研修施設群」を参照。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である立川病院臨床・教育研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し出席を促します。

⑥ リサーチマインドの養成計画

【整備基準 6,12,30】
内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。
立川病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、
患者から学ぶという姿勢を基本とする
科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM; evidence based medicine）
最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）
診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う
症例報告を通じて深い洞察力を磨く
といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、
初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う
後輩専攻医の指導を行う
メディカルスタッフを尊重し指導を行う
といった事を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

⑦ 学術活動に関する研修計画

【整備基準 12】
立川病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、
内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します
経験症例についての文献検索を行い症例報告を行います
臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います
内科学に通じる基礎研究を行います
を通じて科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います。

⑧ コア・コンピテンシーの研修計画

【整備基準 7】
「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識・技能・態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し評価することが可能です。その中で共通・中核となるコア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。
立川病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます。
プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である立川病院臨床・教育研修センターが把握し定期的に E-mail などで専攻医に周知し出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。
患者とのコミュニケーション能力
患者中心の医療の実践
患者から学ぶ姿勢
自己省察の姿勢
医の倫理への配慮
医療安全への配慮
公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
地域医療保健活動への参画
他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

⑨ 地域医療における施設群の役割

【整備基準 11,28】
内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。立川病院内科専門研修施設群研修施設は東京都北多摩西部二次医療圏と東京都内の他の医療圏の医療機関から構成されています。
立川病院は、東京都北多摩西部二次医療圏の中心的な急性期病院であるとともに地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。
連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院・地域基幹病院・地域医療密着型で構成しています。
高次機能・専門病院では、高度な急性期医療・より専門的な内科診療・希少疾患を中心とした診療経験を研修し臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、立川病院と異なる環境で地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療・地域包括ケア・在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

⑩ 地域医療に関する研修計画

【整備基準 28,29】
立川病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態・社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。
立川病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

⑪ 内科専攻医研修モデル

【整備基準 16】
＜研修モデルプラン＞

<table>
<tr><td rowspan="7">【専攻医１年目】
（基幹施設）</td><td>消化器</td><td rowspan="7">総合内科
膠原病
感染症
救急
（領域横断的に研修）</td></tr>
<tr><td>循環器</td></tr>
<tr><td>腎臓</td></tr>
<tr><td>内分泌・代謝</td></tr>
<tr><td>呼吸器・アレルギー</td></tr>
<tr><td>血液</td></tr>
<tr><td>神経</td></tr>
<tr><td>【専攻医２年目】
（基幹施設・連携施設）</td><td colspan="2">【連携施設群】

慶應義塾大学病院
杏林大学医学部付属病院
埼玉医科大学国際医療センター
国際医療福祉大学市川総合病院
東海大学医学部付属八王子病院
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院
国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院
国家公務員共済組合連合会 大手前病院
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
国家公務員共済組合連合会 斗南病院
国家公務員共済組合連合会 北陸病院
国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院
国家公務員共済組合連合会 三宿病院
KKR 札幌医療センター（国家公務員共済組合連合会）
独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
独立行政法人国立病院機構 災害医療センター</td></tr>
</table>

	独立行政法人国立病院機構 東京病院 独立行政法人国立病院機構 埼玉病院 国立精神・神経医療研究センター病院 東京都済生会中央病院 栃木県済生会宇都宮病院 いわき市医療センター さいたま市立病院 横浜市立市民病院 川崎市立川崎病院 平塚市民病院 日野市立病院 足利赤十字病院 静岡赤十字病院 佐野厚生総合病院 JCHO 埼玉メディカルセンター 公立阿伎留医療センター 榊原記念財団附属　榊原記念病院
【専攻医３年目】 （基幹施設・連携施設	基幹施設あるいは連携施設での内科研修 ＊研修達成度により Subspecialty 研修を考慮

専攻医 1 年目は基幹施設である立川病院内科で内科専門研修を行う予定です。
専攻医 1 年目の秋頃には、専攻医の希望・将来像・研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専攻医 2 年目以降の研修施設を調整し決定する予定です。研修先は個々人により異なります。なおこの間は，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

⑫ 専攻医の評価時期と方法

【整備基準 17,19～22】
（1）立川病院 臨床・教育研修センターの役割
立川病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
立川病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

年に複数回（8 月と 2 月を予定，必要に応じて臨時に）専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され 1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って改善を促します。
臨床・教育研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月を予定、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医・Subspecialty 上級医に加えて看護師長・看護師・臨床検査・放射線技師・臨床工学技士・事務員などから接点の多い職員 5 人を指名し評価します。評価表では社会人としての適性・医師としての適正・コミュニケーション・チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で臨床・教育研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼しその回答は担当指導医が取りまとめ J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません。その結果は J-OSLER を通じて集計され担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

（2）専攻医と担当指導医の役割
専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が立川病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
専攻医は 1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群 60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群 120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群 160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう主担当医の割り振りを調整します。
担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し知識・技能の評価を行います.
専攻医は専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促し内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し形成的な指導を行う必要があります。専攻医は内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させ

ます。

（3）評価の責任者
年度ごとに担当指導医が評価を行い基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに立川病院内科専門研修管理委員会で検討し統括責任者が承認します。

（4）修了判定基準【整備基準 53】
1）担当指導医は J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下ⅰ）～ⅳ）の修了を確認します。
ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し登録します。
ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
ⅲ）所定の 2 編の学会発表または論文発表
ⅳ）JMECC 受講
ⅴ）プログラムで定める講習会受講
ⅵ）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し社会人である医師としての適性
2）立川病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し研修期間修了約 1 か月前に立川病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備
「専攻医研修実績記録フォーマット」「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLER を用います。なお「立川病院内科専門研修プログラム　専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「立川病院内科専門研修プログラム　指導医マニュアル」【整備基準 45】と別に示します。

⑬ 専門研修管理委員会の運営計画

【整備基準 34,35,37～39】
（「立川病院内科専門研修管理委員会」参照）
1）立川病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
ⅰ）内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者・プログラム管理者・事務局代表者・内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者および連携施設担当委員

で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます。立川病院内科専門研修管理委員会の事務局を立川病院臨床・教育研修センターにおきます。

ⅱ）立川病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長１名（指導医）は、基幹施設との連携のもと活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために毎年 2 回開催する立川病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設・連携施設ともに毎年 4 月 30 日までに立川病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

前年度の診療実績

病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)１か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.

前年度の学術活動

学会発表，b)論文発表

施設状況

施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催.

Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

⑭ プログラムとしての指導者研修（FD）の計画

【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として J-OSLER を用います。

⑮ 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。
専門研修（専攻医）は各年度とも研修する施設（基幹施設・連携施設）の就業環境に基づき就業します。
・基幹施設である立川病院の整備状況：
研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
立川病院医師として労務環境が保障されています.
メンタルストレスに適切に対処する部署があります.
ハラスメント委員会が整備されています.
女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています.
敷地内に院内保育所があり利用可能です.
・専門研修施設群の各研修施設の状況については「立川病院内科専門施設群」を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は立川病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるがそこには労働時間、当直回数、給与など労働条件についての内容が含まれ適切に改善を図ります。

⑯ 内科専門研修プログラムの改善方法

【整備基準 48～51】
専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価
J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医・施設の研修委員会・およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき立川病院内科専門研修プログラムや指導医あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス
専門研修施設の内科専門研修委員会・立川病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は、J-OSLER を用いて専攻医の逆評価・専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については立川病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。
即時改善を要する事項
年度内に改善を要する事項
数年をかけて改善を要する事項
内科領域全体で改善を要する事項
特に改善を要しない事項
なお研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医

や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。
担当指導医・施設の内科研修委員会・立川病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は、J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、立川病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して立川病院内科専門研修プログラムを評価します。
担当指導医・各施設の内科研修委員会・立川病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は、J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし自律的な改善に役立てます。状況によって日本専門医機構内科領域研修委員会の支援・指導を受け入れ改善に役立てます。

研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応
立川病院臨床・教育研修センターと立川病院内科専門研修プログラム管理委員会は、立川病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて立川病院内科専門研修プログラムの改良を行います。
立川病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

⑰ 専攻医の募集および採用の方法

【整備基準 52】
本プログラム管理委員会は、日本専門医機構および日本内科学会から発表される専攻医募集および採用に関する指示に従います。書類選考および面接等を行い立川病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し本人に通知します。
(問い合わせ先)
立川病院臨床・教育研修センター
(http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/syokikensyu.html)
立川病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

⑱ 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

【整備基準 33】
やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて立川病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し担当指導医が認証します。これに基づき、立川病院内科専門研修プログラム管理委員会と移

動後のプログラム管理委員会がその継続的研修を相互に認証することにより専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから立川病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。
他の領域から立川病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに立川病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。
疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって研修実績に加算します。留学期間は原則として研修期間として認めません。

○立川病院内科専門研修施設群

研修期間：3 年間（基幹施設１年間以上＋連携施設１年以上を設定）

＜研修モデルプラン＞

<table>
<tr><td rowspan="8">【専攻医１年目】
（基幹施設で研修）</td><td>消化器</td><td rowspan="8">総合内科
膠原病
感染症
救急
（領域横断的に
研修）</td></tr>
<tr><td>循環器</td></tr>
<tr><td>腎臓</td></tr>
<tr><td>内分泌・代謝</td></tr>
<tr><td>呼吸器・アレルギー</td></tr>
<tr><td>血液</td></tr>
<tr><td>神経</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>【専攻医２年目】
（基幹施設もしくは
連携施設で研修）</td><td colspan="2">【連携施設群】

慶應義塾大学病院
杏林大学医学部付属病院
埼玉医科大学国際医療センター
国際医療福祉大学市川総合病院
東海大学医学部付属八王子病院
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院
国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院
国家公務員共済組合連合会 大手前病院
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
国家公務員共済組合連合会 斗南病院
国家公務員共済組合連合会 北陸病院
国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院
国家公務員共済組合連合会 三宿病院
KKR 札幌医療センター（国家公務員共済組合連合会）
独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
独立行政法人国立病院機構 災害医療センター
独立行政法人国立病院機構 東京病院
独立行政法人国立病院機構 埼玉病院
国立精神・神経医療研究センター病院
東京都済生会中央病院
栃木県済生会宇都宮病院
いわき市医療センター
さいたま市立病院
横浜市立市民病院
川崎市立川崎病院
平塚市民病院
日野市立病院
足利赤十字病院
静岡赤十字病院
佐野厚生総合病院
JCHO 埼玉メディカルセンター</td></tr>
</table>

	公立阿伎留医療センター 榊原記念財団附属　榊原記念病院
【専攻医３年目】 （基幹施設もしくは 連携施設で研修）	基幹施設もしくは連携施設での内科研修 ＊研修達成度により Subspecialty 研修を考慮

【立川病院内科専門研修施設群研修施設】

区分	病院名	病床数	内科学会 指導医数	総合内科 専門医数
基幹施設	立川病院	450	27	21
連携施設	慶應義塾大学病院	950	158	94
連携施設	杏林大学医学部付属病院	1153	102	63
連携施設	埼玉医科大国際医療センター	722	44	35
連携施設	国際医療福祉大学市川総合病院	511	30	21
連携施設	東海大学医学部付属八王子病院	500	30	20
連携施設	国家公務員共済組合連合会　虎の門病院	819	57	49
連携施設	国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院	740	20	20
連携施設	国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院	565	27	19
連携施設	国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院	430	11	10
連携施設	国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院	441	21	21
連携施設	国家公務員共済組合連合会　大手前病院	401	11	17
連携施設	国家公務員共済組合連合会　浜の町病院	468	16	16
連携施設	国家公務員共済組合連合会　斗南病院	283	17	13
連携施設	国家公務員共済組合連合会　北陸病院	124	2	5

連携施設	国家公務員共済組合連合会　舞鶴共済病院	300	4	4
連携施設	国家公務員共済組合連合会　三宿病院	244	13	13
連携施設	KKR 札幌医療センター（国家公務員共済組合連合会）	410	23	20
連携施設	国立病院機構 東京医療センター	688	40	33
連携施設	国立病院機構 災害医療センター	455	16	18
連携施設	国立病院機構 東京病院	512	21	16
連携施設	国立病院機構 埼玉病院	550	18	18
連携施設	国立精神・神経医療研究センター病院	486	21	14
連携施設	東京都済生会中央病院	535	25	25
連携施設	栃木県済生会宇都宮病院	644	17	20
連携施設	いわき市医療センター	700	11	6
連携施設	さいたま市立病院	637	26	20
連携施設	横浜市立市民病院	650	35	25
連携施設	川崎市立川崎病院	713	36	20
連携施設	平塚市民病院	416	16	12
連携施設	日野市立病院	300	6	7
連携施設	足利赤十字病院	540	13	7
連携施設	静岡赤十字病院	465	19	16
連携施設	佐野厚生総合病院	531	11	10
連携施設	JCHO 埼玉メディカルセンター	395	21	17
連携施設	公立阿伎留医療センター	310	12	7
連携施設	榊原記念病院	307	17	14

【各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性】

病院名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	脳神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
立川病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
慶應義塾大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
杏林大学医学部付属病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
埼玉医科大学国際医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際医療福祉大学市川総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東海大学医学部付属八王子病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○
国家公務員共済組合連合会　虎の門病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国家公務員共済組合連合会　大手前病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
国家公務員共済組合連合会　浜の町病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国家公務員共済組合連合会　斗南病院	○	○	○	○	○	△	△	○	×	○	○	○	△
国家公務員共済組合連合会　北陸病院	○	○	△	△	○	△	△	×	×	×	×	△	△
国家公務員共済組合連合会　舞鶴共済病院	○	△	○	△	△	△	△	×	×	△	×	△	○
国家公務員共済組合連合会　三宿病院	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	△	○
KKR 札幌医療センター（国家公務員共済組合連合会　）	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	△	○	○
国立病院機構 東京医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立病院機構 災害医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立病院機構 東京病院	○	○	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○
国立病院機構 埼玉病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立精神・神経医療研究センター	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
東京都済生会中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
栃木県済生会宇都宮病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○

いわき市医療センター	○	○	○	△	△	△	△	○	△	△	△	○	○
さいたま市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
横浜市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川崎市立川崎病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平塚市民病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	△	○	○
日野市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
足利赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
静岡赤十字病院	○	△	△	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×
佐野厚生総合病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
JCHO 埼玉メディカルセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
公立阿伎留医療センター	△	○	○	△	△	○	○	△	×	△	○	△	○
榊原記念病院	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

○：症例数が豊富にある　△：症例数は少なめ　×：あまり症例がない

○専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．立川病院内科専門研修施設群研修施設は東京都内の医療機関から構成されています．
立川病院は，東京都北多摩西部二次医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．
連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院，地域基幹病院および地域医療密着型病院で構成しています．
高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．
地域基幹病院では，立川病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．
地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

○専門研修施設（連携施設）の選択

専攻医１年目の秋頃に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に研修施設を調整し決定します．
専攻医２年目の１年間を連携施設で研修を原則とします。なお，研修達成度によってはSubspecialty研修も可能です（個々人により異なります）．

○専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

東京都、北海道、福島県、栃木県、埼玉県、神奈川県、千葉県、静岡県、石川県、京都府、大阪府、福岡県にある施設から構成しています。

○専門研修基幹施設

国家公務員共済組合連合会　立川病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･立川病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ･ハラスメント委員会が立川病院に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医が 27 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　日本専門医機構認定共通講習会 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に，JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます（2025 年度 JMECC 開催実績 1 回）.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 9 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 5 演題）をしています. ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに，英文・和文論文の筆頭著者として執筆する機会があり，学術的な指導を受けることができます（2024 年度内科系学会発表数 44 演題、英文論文 9 編・和文論文 8 編）. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.
指導責任者	森谷　和徳（副院長・内科専門研修プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は東京都立川市に所在し地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院・東京都地域救急医療センター・東京都 CCU ネットワーク・東京都脳卒中急性期医療などの高度急性期医療を提供するほか、東京都災害拠点病院・災害派遣チーム指定医療機関・東京都災害派遣精神医療登録医療機関・第二種感染症指定病院・東京都周産期連携病院・東京都精神科身体合併症医療機関・認知症疾患医療センターなどの多くの行政指定を受けており、政策的医療も牽引し東京都北多摩西部二次医療圏の中核病院としての役割を担い「大学病院に勝るとも劣らない医療水準」を目指しています．人の一生に関わるトータルケアを実践している当院は，「赤ちゃんからお年寄りまで」をモットーにしています. 全人的医療を実現するべく，あらゆる疾患に対応できるように，研修医・専攻医のみならずスタッフ医師も日々学んでいく姿勢を大事にしています．内科スタッフが協力して一人の患者さんを診療する風通しの良い体制を誇りとしてい

	ます. 特に得意としている疾患は次の通りです. ＜呼吸器内科＞ 肺がん，肺炎，喘息・COPD，間質性肺炎，非結核性抗酸菌症，睡眠時無呼吸症候群 ＜循環器内科＞ 急性心筋梗塞や狭心症のカテーテル治療（東京都 CCU ネットワーク加盟機関），糖尿病患者等の虚血性心疾患スクリーニング，心不全，不整脈 ＜消化器内科＞ 上部・下部消化管内視鏡手術，炎症性腸疾患，肝臓病 ＜脳神経内科＞脳卒中，認知症（東京都認知症疾患医療センター），パーキンソン病，多発性硬化症，重症筋無力症 ＜血液内科＞ 悪性リンパ腫，白血病，多発性骨髄腫，白血球増多，血小板減少 ＜腎臓内科＞ CKD，検尿異常から末期腎不全まで ＜糖尿病・内分泌代謝内科＞ 糖尿病，糖尿病合併妊娠
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本肝臓病学会肝臓専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 3 名，日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本腎臓学会腎臓専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医 1 名，日本感染症学会感染症専門医 1 名ほか（2025 年度）
外来・入院 患者数	2025 年度実績　外来患者 18,598 名（1 ヶ月平均）、入院患者 10,822 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	地域医療支援病院に指定されており、高度急性期医療だけでなく，東京都北多摩西部二次保健医療圏の伝統と実績と信頼のある中核病院として、地域に根ざした医療，病診・病病連携を経験できます．東京都の委託事業として、脳卒中医療連携推進協議会（事務局）、地域拠点型認知症疾患医療センター、糖尿病医療連携協議会（事務局）、東京都 CCU ネットワーク加盟機関で地域連携事業に主導的役割を果たしています。周産期母子医療センター、MPU(精神科身体合併症病棟)も設置されており、産科、小児科、精神神経科関連の医療連携も多数経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本神経学会専門医制度教育施設

	日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本てんかん学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか

○専門研修連携施設

1. 慶應義塾大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･北里図書室・研修医ラウンジにインターネット環境があり、電子ジャーナル・各種データベースなどへアクセスできます. ･慶應義塾大学大学後期臨床研修医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに対処する保健管理センターがあり無料カウンセリングも行っています. ･ハラスメント防止委員会が慶應義塾大学に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室・休憩室が整備されています. ･病院から徒歩 3 分のところに慶應義塾保育所があり、病児保育補助も行っています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 98 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する医学教育統轄センターがあり、その事務局として専修医研修センター、および内科卒後研修委員が設置されています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 8 回，感染対策 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 14 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（医師会と合同主催の講演会や研究会）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績　22 演題）をしています. ・各専門科においても内科系各学会において数多くの学会発表を行っております（2015 年度実績　438 演題）. ・臨床研究に必要な図書室，臨床研究推進センターなどを整備しています.
指導責任者	金井　隆典 【内科専攻医へのメッセージ】 慶應義塾大学病院は、東京都中央部医療圏に位置する 1044 床を有する高度先進医療を提供する急性期中核医療機関です。また、関東地方を中心とした豊富な関連病院との人事交流と医療連携を通して、地域医療にも深く関与しています。歴史的にも内科学教室では臓器別の診療部門をいち早く導入したことで、内科研修においても全ての内科をローテートする研修システムを構築し、全ての臓器の病態を把握し全身管理の出来る優れた内科医を多く輩出してきました。 本プログラムでは、内科全般の臨床研修による総合力の向上と高度な専門的

	研修による専門医としての基礎を習得することだけではなく、医師としての考え方や行動規範を学ぶことも目的としています。 また、豊富な臨床経験を持つ、数、質ともに充実した指導医のもと、一般的な疾患だけではなく、大学病院特有の高度先進医療が必要な疾患を含めて、1年間で内科全般の臨床研修ができることが本コースの強みのひとつです。さらに、大学病院のみならず、豊富な関連病院での臨床研修を行うことで、バランスのとれた優秀な内科医を育成する研修カリキュラムを用意しています。 以上より、当プログラムの研修理念は、内科領域全般の診療能力（知識、技能）を有し、それに偏らず社会性、人間性に富んだヒューマニズム、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドをバランスよく兼ね備え、多様な環境下で全人的な医療を実践できる医師を育成することにあります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 98 名，日本内科学会総合内科専門医 69 名 日本肝臓学会専門医 7 名，日本消化器病学会消化器専門医 17 名，日本循環器学会循環器専門医 28 名，日本内分泌学会専門医 7 名，日本腎臓学会専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名，日本血液学会血液専門医 5 名，日本神経学会神経内科専門医 9 名，日本アレルギー学会専門医（内科）6 名，日本リウマチ学会専門医 13 名，日本感染症学会専門医 3 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 23,796 名（2015 年度実績 1 ヶ月平均）　入院患者 637 名（2015 年度実績 1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会教育病院 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設

	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設　など

2. 杏林大学医学部付属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･杏林大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ･ハラスメント委員会が杏林大学に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･施設近隣に当院と提携している保育所があり、病児保育の利用も可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 96 名在籍しています（2020 年 3 月時点）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に複数回開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2018 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・JMECC 受講（杏林大学医学部付属病院で開催実績：2019 年度開催実績：2019 年 3 月末日に開催予定） プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，膠原病，高齢医学，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実 45 体，2018 年度 35 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・国内では，地方会や総会で，積極的に学会発表をしています. また海外の学会でも、学会発表を行います.
指導責任者	消化器内科 主任教授　久松理一 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和 45 年 8 月に設置した杏林大学医学部付属病院は,東京西部・三多摩地区の大学病院として高度な医療のセンター的役割を果たしており,平成 6 年 4 月に厚生省から特定機能病院として承認されています. 高度救命救急センター（ 3 次救急医療）、総合周産期母子医療センター、がんセンター、脳卒中センター、透析センター、もの忘れセンター等に加え、救急初期診療チームが 1 ・2 次救急に 24 時間対応チームとして活動しています. 東京都三鷹市に位置する基幹施設として，東京都西部医療圏（多摩，武蔵野）・近隣医療圏にある連携施設と協力し内科専門研修を経て東京都西部医療圏の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練します. さらに内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はより高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して，複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 58 名，日本内科学会指導医 96 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名，日本腎臓病学会専門医 12 名，日本透析学会専門医 10 名，日本リウマチ学会専門医 8 名，日本神経学会神経内科専門医 9 名，日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 23 名，日本不整脈学会不整脈専門医 8 名，日本消化器病学会消化器専門医 19 名，日本消化器内視鏡学会専門医 14 名，日本内分泌学会専門医 11 名，日本糖尿病学会専門医 7 名，日本老年医学会老年病専門医 9 名,日本臨床腫瘍学会暫定指導医 1 名，他
外来・入院患者数	内科系外来患者 15617 名（1 ヶ月平均） 内科系入院患者　9140 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症経験することができます.
経験できる技術・技能	本プログラムは,専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）（基幹施設 1.5 年間＋連携施設 1.5 年間），東京都地域枠へき地対応プログラムに豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.
経験できる地域医療・診療連携	連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，原則として 1 年間あるいは 1.5 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会教育認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本リウマチ学会リウマチ専門研修認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本老年医学会認定施設 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医認定施設　など

3. 埼玉医科大学国際医療センター

研修責任者	岩永史郎（心臓内科教授）
病床数	一般 722 床
医師数	268 名
初期臨床研修医数	26 名
理念	患者中心主義のもと安心で安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度の医療水準を維持 するよう努めます。
基本方針	上記の理念に従って患者中心主義（patient-centered）を貫き、あらゆる面で ”患者さんにとって 便利” であることを主眼とし、患者さんひとりひとりにとって最も適切な医療を提供致します。
住所	埼玉県日高市山根 1397-1（最寄り駅：JR 川越線 高麗川駅／東部生越線 東毛呂駅）
電話番号	042-984-4111
病院長	佐伯　俊昭
診療科	脳脊髄腫瘍科、小児腫瘍科、小児外科、造血器腫瘍科、婦人科腫瘍科、泌尿器腫瘍科、乳腺腫瘍科 皮膚腫瘍科、骨軟部組織腫瘍科、頭頸部腫瘍科、形成外科、原発不明・希少がん科、緩和医療科、 精神腫瘍科、放射線腫瘍科、病理診断科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、心 臓内科、不整脈科、心臓血管外科、小児心臓外科、小児心臓科、心臓リハビリテーション科、救命 救急科、総合診療・地域医療科、脳卒中内科、脳卒中外科、脳血管内治療科、画像診断科、核医学 科、運動・呼吸器リハビリテーション科、麻酔科、集中治療科
役割	各内科系診療科において Subspecialty 研修または充足していない領域の追加研修を行う。更に大学 病院ゆえに遭遇するような難治性・稀少疾患にどのように対処するのかを学び、様々な状況に対応 できる力を養う。
研修可能分野	総合内科Ⅰ(一般), 総合内科Ⅱ(高齢者), 総合内科Ⅲ(腫瘍),消化器, 循環器, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, 膠原病及び類縁疾患, 感染症, 救急

4. 国際医療福祉大学市川総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・東京歯科大学市川総合病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（庶務課）があります. ・ハラスメント防止対策委員会が大学に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー 室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 28 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（内科部長または循環器内科部長）にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科研修委員会と内科臨床研修センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2022 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2022 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（市川リレーションシップカンファレンス（地域医師会員をはじめとする地域医療従事者を対象）：2022 年度実績 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催実績 2 回：受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に内科臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能 な症例数を診療しています（前記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（前記）. ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 5 体）を行っています. ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2022 年度実績 6 回）しています. ・治験審査委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 6 回）しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016 年度実績 6 演題）をしています.
指導責任者	大木 貴博（副病院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 国際医療福祉大学市川総合病院は，千葉県東葛南部医療圏の中心的な急性期病院、地域支援病院です。専攻医の体力や熱意、将来ビジョンや進路に応えられるように、連携病院と協力して多様な選択肢を提供します。地域医療や救急医療をじっくり研修したい、研究やアカデミックな経験もしてみたい、総合力を身につけてから一度はがん治療の最先端に加わりたいなど、タイプに合わせたプログラムを用意しています。当院は歯科大学の総合病院としてアカデミックな風土をも有し、指導医は臨床と研究志向をともに大切にしようというコンセンサスを共有しています。大学病院というリサーチに理解がある環境と、急性

	期病院、地域支援病院という優れた指導医の下で豊富な症例を経験することができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 8472.1 名（1 ヶ月平均） 入院患者 320 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会教育施設 など

5. 東海大学医学部付属八王子病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･東海大学医学部付属八王子病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務課職員担当）があります. ･ハラスメント委員会が東海大学医学部付属八王子病院に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が３３名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科(一般),消化器,循環器,代謝,腎臓,呼吸器,血液,神経,膠原病及び類縁疾患,感染,症救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会において発表しています.
指導責任者	教育研修部長　　横山健次 　当院は 2002 年 3 月に八王子市を中心とした南多摩地区の基幹病院の一つとして，設立されました．現在 33 科の診療科があり，500 床を擁する総合病院で最新鋭の医療機器を用いて高度な医療を提供しています．専門の医療スタッフも豊富で，あらゆる疾患に対応可能な医療体制を敷いています．また近隣の医療機関との病病連携，病診連携にも力を入れており，地域における高度急性期病院として積極的にその役割を果たしています． 　このように多彩な疾患を，外来，入院診療を通して経験できる地盤があります．また,他の診療科や，看護師，コメディカルとの連携も良好で，機能的な医療チームが構築できる環境であり、研修医からは大変学びやすい環境との感想を頂いています． 　さて，内科系各診療科の特徴ですが，消化器内科は全般的に経験が豊富ですが，中でも内視鏡的外科手術や経皮的肝癌治療の件数が多いことが挙げられます．循環器内科は冠動脈インターベンションやカテーテル・アブレーションなどの侵襲的治療や心臓リハビリテーションに力を入れています．神経内科は脳卒中，脳炎，髄膜炎などの急性疾患の患者さんが多く，地域の中核的な役割を果たしています．呼吸器内科は COPD，間質性肺疾患が得意ですが，また呼吸器外科との連携を強め，肺がん診療にも力を入れています．血液内科は白血病，リンパ腫など造血器腫瘍の経験が豊富で，多摩地区でも有数の症例数を誇っています．腎糖尿病内科は腎疾患，代謝疾患，糖尿病，生活習慣病など幅広い領域を担当しており，特にシャントトラブルなどの血液透析合併症では近隣施設から多くの紹介があります．リウマチ内科は様々な自己免疫性疾患に対応できる体制を整えております．さらに当院のもう一つの特徴は総合内科が併設されていることです．内科各分野に跨った病態をカ

	バーしてくれており，また高齢者医療にも尽力しています． 　以上，当院ではほぼ内科全般にわたって研修することが可能で，研修医の数もそれほど多くないことから，研修医一人一人が多くの症例，様々な手技を経験することができます．また進路となるサブスペシャリティー領域の重点的な研修も可能です．是非，八王子病院にお越し下さい．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医３３名，日本内科学会総合内科専門医１９名 日本消化器病学会消化器専門医６名，日本循環器学会循環器専門医７名， 日本内分泌学会専門医０名，日本糖尿病学会専門医２名， 日本腎臓病学会専門医２名，日本呼吸器学会呼吸器専門医３名， 日本血液学会血液専門医３名，日本神経学会神経内科専門医４名， 日本アレルギー学会専門医（内科）０名，日本リウマチ学会専門医２名， 日本感染症学会専門医０名，日本救急医学会救急科専門医０名， 日本肝臓学会肝臓専門医４名ほか
外来・入院患者数	2022 年度入院患者数（延）：17,248 名 2022 年度外来患者数（延）：196,028 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	高度急性期医療だけではなく，地域の中核病院として，医師会との医療連携の会を開催し，近隣の医療機関との連携も経験できます． がん治療に力を注いでおり，内科，外科との連携による内視鏡治療，鏡視下手術，開腹手術，放射線治療など全てのがん治療に対応できる体制を取っています． 24 時間，365 日対応の二次救急体制を敷き，救命救急専門医による救急医療が経験できます．循環器系，脳神経系の救急医療についても，超急性期の血管障害に対し，血栓溶解療法や血管内治療などの最新治療が経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本循環器学会研修施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本頭痛学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本透析学会認定施設 日本腎臓学会研修施設

6. 国家公務員共済組合連合会　虎の門病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・メンタルストレスに適切に対処出来るよう健康管理室があり産業医がいます。 ・ハラスメントを取り扱う委員会があります ・2019 年 5 月に新病院が設立されます
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は 65 名在籍しています ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者;腎臓内科部長）、プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）が基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医学教育部が設置されています ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医の受講を義務付けています ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けます ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催します ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けています ・日本専門医機構による施設実地調査に医学教育部が対応します
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室やインターネット環境を整備しています。図書室には専属の司書が在籍しており文献の取り寄せなど行います。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方回に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	森　保道
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 65 名、日本内科学会総合内科専門医 55 名、日本消化器学会消化器病専門医 24 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 6 名、日本腎臓学会腎臓専門医 14 名 、日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名、日本血液学会血液専門医 11 名 、日本神経学会神経内科専門医 11 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 8 名、日本老年医学会老年病専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 15 名
外来・入院患者数	外来：2,794 人/1 日平均患者数 入院：752 人/1 日平均患者数
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、 内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域に密着した２つの連携施設における研修を必修とし、地域医療の実態を経験し、内科専門 医として地域住民の健康増進に貢献する術の習得を目指します。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本血液学会認定医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設

	日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設 日本胸部疾患学会認定医制度認定施設（内科・外科系） 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本リウマチ学会認定施設 日本形成外科学会認定医制度研修施設 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本人類遺伝学会臨床細胞遺伝学認定士制度研修施設 日本神経学会認定施設　など

7. 国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修病院の指定を受けている。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・横須賀共済病院の専攻医として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・近傍に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 23 名在籍している。 ・本プログラム管理委員会を設置して専攻医の研修を管理し，基幹施設、連携施設に設置される研修委員会と連携を図る。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績 42 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2017 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2019 年度予定）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に、JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理部が対応する。
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	・病床数（全体）：740 床、うち内科系病床：333 床 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 65 以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 13 体、2018 年度実績 13 体）である。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・治験センターが設置している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。（2017 年度実績 10 演題）
指導責任者	渡辺 秀樹 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀共済病院は横須賀・三浦地区の二次医療圏の中核病院として急性期医療を担っています。 特に救急医療に力を入れており、内科専門医研修として十分な症例を経験できます。 また、各内科の専門医・指導医が豊富にいるため、内科専門医研修医への指導体制も充実しています。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援などを積極的に行っています。 さらに地域医療支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療からがん診療、そして地域連携と多様

	な病状・病態の症例を経験可能です。 また、地域連携病院として横須賀・三浦地区の近隣の病院から、横浜市立大学・東京医科歯科大学の関連病院などがあり、希望にあわせて連携病院での研修も行います。 当院での研修・連携病院での研修をあわせて最初の 2 年間での内科専門医研修に必要な症例を網羅できるようにプログラムを組み、最後の 1 年間はサブスペシャルティ研修が受けられるようしていきます。 かなり多忙な 3 年間になると思われますが、充実した経験が可能です。 熱意のある先生方からの志望をお待ちしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本内分泌学会 1 名、日本糖尿病学会 1 名
外来・入院患者数	外来患者　12,664.3 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　819.3 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定医制度教育関連施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度認定施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設　など

8. 国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。 ・ 院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各１名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所が整備されている。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 25 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績　医療倫理 1 回、安全 3 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2018 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績　金沢区 CPC　1 回、消化器疾患　内科・外科・病理カンファレンス　1 回　神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会　1 回　呼吸器疾患医療連携セミナー　2 回など　各科および複数科合同で計 10 回程度）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績　4 演題）をしている。
指導責任者	小泉晴美 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜南共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり、立川病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・ 入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　11,122 名（1 ヶ月平均）

	入院患者　1,403 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　など

9. 国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されてい ます. ･メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤しています. ･院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各１名おり、セクハラに関する相談を受け付けています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 11 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに内科指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図り ます. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床 研修センター（仮称：2023 年度以降予定）を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2022 年度開催予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2021 年度実績 2 回（COVID-19 影響））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：循環器症例検討会，心不全医療連携研究会，糖尿病内分泌談話会，腎疾患地域談話会、呼吸器懇話会，消化器疾患地域談話会，救急症例検討会；2021 年度実績 14 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体，2021 年度 2 体（COVID-19 影響））を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2021 年度実績 12 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 12 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしています.
指導責任者	山田 昌代 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜栄共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり、協力病院と連携して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、

	日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,134 名（1 ヶ月平均） 入院患者 5,023 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本動脈硬化学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定 日本認知症学会教育施設 日本病理学会研修登録施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

10. 国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	· 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 · 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 · 身分について・・・平塚共済常勤、労務環境が保障されている。 · メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。 · ハラスメント委員会が整備されている。 · 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シ ャワー室、当直室が整備されている。 · 敷地内に院内保育所が利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	· 内科指導医が 30 名、総合内科専門医が 23 名在籍している。 · 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 · 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 4 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 · 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加するよう専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 · CPC を定期的に開催（2018 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 · 地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 15 回：登録医の会、循環器連携の会、胸部ＸＰ読影カンファランスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。救急は搬送患者数が多く、週 2 日は専門医が指導に当たる環境にある。血液、感染症、アレルギーに関しては上記診療科で随時診療を行っている。 · 専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 10 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 3 演題）をしている。 ・臨床研修に必要な図書室・インターネット環境などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。
指導責任者	稲瀬 直彦（病院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 平塚共済病院の内科病床は 200 床以上あり、急性期から慢性期まで幅広い研修が可能です。心臓センター、脳卒中センターのほかに二次救急ですが 19 床を有する救急センターがあり 2.5 次の救急医療を実践しています。当院は神奈川県がん診療連携指定病院であり、がん診療の専門的研修ができます。 プログラムそのものは柔軟に考えますが、基本的には４か月ごとのスパンでじっくり研修するプログラムとしています。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的な診断・治療の流れを経験し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になるとともに、剖検症例も経験できるものと考えます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本腎臓学会腎臓専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、ほか

外来・入院患者数	外来患者　18,723 名(1 ヶ月平均)　入院患者　10,820 名(1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設 ＮＳＴ稼働施設認定書 胸部・腹部ステントグラフト実施施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化器がん検診学会認定指導施設　など

11. 国家公務員共済組合連合会　大手前病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，当直室が整備されています. ･保育所利用制度があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 11 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．また，CPC を補完する内科系死亡症例検討会を月 1 回実施しています. ･地域参加型のカンファレンス（症例検討会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，神経，循環器，代謝・内分泌，呼吸器，血液，腎臓，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･専門研修に必要な剖検を毎年行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています．他の内科系学会での発表も，積極的に推奨しています. ･専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています. ･倫理審査委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験事務局を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています.
指導責任者	杉浦 寿央 【内科専攻医へのメッセージ】 大手前病院は，大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院の１つで，大阪府指定の地域医療支援病院でもあり、大阪市東部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．内科系の多くのサブスペシャルティを持った病院であり,各分野の専門医がおり多彩な疾患を経験できます. 大阪府がん診療拠点病院であり，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），放射線治療，内視鏡検査・治療から緩和ケア治療までを経験できます．また，救急病院で二次救急の救急搬送を年間約 5,891 件（うち内科系症例 3,625 件）（2024 年度）受け入れており，救急の研修も十分に行えます. 主治医・担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 17 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本肝臓学会専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 1 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本神経学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1

	名，ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者実数 60,768 人/年，内科系入院患者数 4,660 人/年（2024 年度）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，多くの内科領域において内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	1）急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. 2）技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます .
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育病院,日本肝臓学会認定施設,日本血液学会専門医制度研修施設,日本呼吸器学会認定施設,日本呼吸器内視鏡学会認定施設,日本消化器内視鏡学会認定指導施設,日本消化器病学会専門医制度認定施設,日本大腸肛門病学会関連施設,日本超音波医学会超音波専門医研修施設,日本乳癌学会関連施設,日本臨床腫瘍学会認定研修施設,日本がん治療認定医機構認定研修施設,日本病理学会研修認定施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設,日本臨床細胞学会認定施設,日本脳卒中学会教育施設,日本糖尿病学会認定教育施設,日本神経学会専門医制度準教育施設,日本感染症学会感染症専門医制度認定研修施設,日本腎臓学会認定研修施設,日本透析医学会認定施設など

12. 国家公務員共済組合連合会　浜の町病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･浜の町病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ･ハラスメント委員会が浜の町病院に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー 室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 18 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長），プログラム管理 者（教育部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携 施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2020 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（内科総合カンファレンス，福岡地域救急医療合 同カンファレンス，福岡市内科医会，福岡市中央区内科医会，福岡市中央区消 化器病症例検討会；2019 年度実績 30 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的 余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 6 体，2020 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019 年度実績 12 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2019 年度実績 10 回） しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 6 演題）をしています.
指導責任者	吉澤　誠司 【内科専攻医へのメッセージ】 浜の町病院は，福岡県の福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり，福岡・糸島医療圏や近隣医療圏にある施設とも連携して内科専門研修を行っています。 主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、診断・治療の経時的な流れを学ぶことで、社会的背景・療養環境調整をも包括した全人的医療を実践できる内科専門医の育成を目指しています。 内科のほぼすべての分野において、専門学会の指導医あるいは専門医の資格

	を 持つ部長が指導に当たり、幅広い研修が可能です。 シミュレーションラボセンターを併設しているため、高度なシミュレーターを使用して技術指導を受けることが可能です。 急患や総合診療症例も多く、急性疾患から慢性疾患まで幅広く研修することが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本肝臓学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本感染症学会専門医 2 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 5 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 22740 名（1 ヶ月平均） 入院患者 410 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験する ことができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病 病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医制度専門医研修施設認定 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設認定 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設認定 日本脳卒中学会研修教育病院認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度指導施設認定 など

13. 国家公務員共済組合連合会　斗南病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 2016 年 10 月に新病院がオープンし, 環境（ハード面）が格段に改善されました. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･国家公務員共済組合連合会非常勤医師として常勤医師同等の労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する相談員が２名任命されています. ･ハラスメントの防止等に関する規程が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室、更衣室、当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 18 名在籍しています. ・専攻医プログラム委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績 医療安全 6 回、感染対策 6 回）し、専攻医に各 2 回以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2020 年度実績 臨床病理検討会（オープンカンファレンス）12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症、救急の 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体）を行ってい ます.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間の学会発表（2020 年度実績 41 演題）をしています。消化器病、消化器内視鏡、腫瘍内科、リウマチ、血液関連の学会に多数の発表を行っています. ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2020 年度実績 7 回）しています. ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2020 年度実績 10 回）しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.
指導責任者	北城　秀司 【内科専攻医へのメッセージ】 道内屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん 剤治療（標準治療, 臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射 線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療など、がん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます. また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます. 斗南病院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名 日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 14 名 日本消化器病学会消化器病専門医 14 名 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名

	日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 10 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来延べ患者 13,154 名うち内科 6,783 名（１ヶ月平均） 入院延べ患者 6,645 名うち内科 3,482 名（１ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）に ある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.とくに総合内科、消化器、内分泌、血液、膠原病などの疾患群は豊富です.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会指定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 その他

14. 国家公務員共済組合連合会　北陸病院

（作成中）

15. 国家公務員共済組合連合会　舞鶴共済病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・舞鶴共済病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（衛生委員会・総務課）があります。 ・ハラスメント委員会が舞鶴共済病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近傍に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が４名、総合内科専門医が４名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（２０２３年度実績 医療倫理１回、医療安全２回、感染対策２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣを定期的に開催（２０２３年度実績１回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕 を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（２０２３年度実績 クリニカルセミナー：３回、公開ＣＰＣ：１回　など） を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、循環器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表（２０２２年度実績１演題） をしています。
指導責任者	湯地雄一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 舞鶴共済病院は京都府北部の中心的な急性期病院の一つであり、連携施設として基幹病院と連携して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる専門医を教育します。自ら患者さんの主担当医として初診・急性期から回復期、退院まで継続的な診療を経験し、患者さんの社会的背景も踏 まえた全人的医療を実践できる内科専門医を育てます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医４名、日本内科学会総合内科専門医４名、日本循環器学会循環器専門医３名
外来・入院患者数	外来患者 ８，６００名（１ヶ月平均） 、入院患者５，４２４名（１ヶ月平均）
経験できる疾患群	１３領域のうち、３領域３５疾患群以上の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期疾患の治療だけでなく、多岐にわたる問題を有する高齢者の総合的な診療や、回復期のリハビリ、退院調整と地域の医療・介護システムへの受け渡しなどに関わる中で、地域に根ざした医療、病診連携・病病連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

	日本脈管学会認定研修指定施設, 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

16. 国家公務員共済組合連合会　三宿病院

（作成中）

17. KKR 札幌医療センター　（KKR：国家公務員共済組合連合会）

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ＫＫＲ札幌医療センター非常勤医師として常勤医師同等 の労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する相談員が４名任命されています. ・ハラスメントの防止等に関する規定が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣 室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に病後児保育施設が整備されており,利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 18 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（内科 特任部長，内科指導医），プログラム管理者（呼吸器セン ター長，総合内科専門医・指導医）：基幹施設，連携施設 に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（平成 29 年度 実績 医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講 を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（平成 29 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（平成 29 年度実績 札幌市 医師会症例検討会 3 回，南部救急フォーラム 1 回）を 定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け義務づけると ともに発表者となることもあります．そのために時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センターが対応します. ・特別連携施設の研修では，電話，メールなどを活用して専攻医と連絡し，研修状況を把握するとともに指導を行 います.
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・13 領域のうちほぼ全領域について研修できます.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，インターネット環境，虎の門病院中央図書室を通じて文献検索などが出来ます. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会，内科系学会に年 間で計 10 演題以上の学会発表（平成 28 年度内科学会北海道地方会 1 演題，内科系学会 21 演題）を予定して います. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（平成 29 年度実績 11 回）しています.　・治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（平 成 29 年度実績 5 回）しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり， 和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行わ れています.
指導責任者	斎藤　拓志 【内科専攻医へのメッセージ】 KKR 札幌医療センターは札幌市南部に位置する急性期基幹病院です．札幌医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行いま

	す．このプログラム を通じて，内科医師のキャリアアップの一歩となるとともに，地域医療を支える医師あるいは研究を目指すことも出 来るような基盤形成になることができるよう研修をすすめていきたいと思います．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名 日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 2 名 日本緩和医療学会 暫定指導医 2 名 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 7 名 日本がん治療認定医機構 暫定教育医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,069.5 名うち内科 363.2 名（1 日平均） 入院患者 344.6 名うち内科 158.3 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することがで きます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能 を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができ ます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざ した医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設　など

18. 独立行政法人国立病院機構　東京医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	期間付常勤職員としての労務環境を保障 専攻医寮有（駐車場有り） 図書室とインターネット環境有り（蔵書数単行本約 4000 冊、製本約 33000 冊、継続雑誌約 300 タイトルの医中誌、メディカルオンライン、ProQuest など各種文献検索サービスあり） 院内保育園有り 委員会・ワーキング等の設置有り（メンタルストレス対策、ハラスメント委員会、ワークライフバランス向上ワーキング等） 授乳室、女性用休養室有り 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院（臨床研修実施は 50 年以上）
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医常時 40 名程度 内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る CPC カンファレンス年間 5 回程度実施 JMECC ディレクター資格取得者１名、インストラクター資格１名 内科専門研修事務局設置 各種研修会等 医療倫理講習会 医療安全講習会・研修会 感染対策・ICT 講習会 研修施設群合同カンファレンス キャンサーボード EBM ワークショップ 「医療を考える」シンポジウム AHA BLS コース、AHA ACLS コース 地域医療カンファレンス JMECC 講習会 臨床研究セミナー 生物統計セミナー　　等 臨床研究センター（感覚器センター）併設
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 〒１５２－８９０２　東京都目黒区東が丘 2-5-1 病床数（医療法）640 床（一般 640 床［うち救命救急病床 28 床］・精神 48 床） 高度専門医療施設：感覚器 基幹医療施設：がん 専門医療施設：循環器　腎疾患　内分泌・代謝性疾患　免疫疾患　血液・造血器疾患　成育医療　精神疾患 特色：救命救急センター　エイズ治療拠点病院　東京都災害拠点病院　管理型臨床研修指定病院　臓器提供施設　地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院　東京都脳卒中急性期医療機関　周産期連携病院　がんゲノム医療連携病院 内科剖検数：22 体/3 年

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	臨床研究センター設置（希望する専攻医は臨床研究センターに所属して研究に従事することが可能。疫学的手法を用いた臨床研究の手法についての理解を深めることも可能。） 倫理審査委員会設置：10 回/年開催 専攻医は内科臨床に関連する学会で症例報告を行う。（各種研究会及び学会総会や地方会での発表の指導を受けることができる。） 2016 年度からは臨床研究支援センターを立ち上げ、臨床研究を計画するものや実施する医師等に対し、倫理委員会への提出やデータマネジメント業務などの支援を行っている。 治験も積極的に行っている。
指導責任者	内科専門研修プログラム統括責任者：上野 博則
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 44 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名、日本肝臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本老年医学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 8 名、ほか
外来・入院患者数	外来：341,702 人（1394.7 人/日）　　入院：175,658 人（481.3 人/日）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療、在宅医療、超高齢医療、病診・病病連携、地域包括ケア、アドバンス・ケア・プランニング
学会認定施設 （内科系）	日本感染症学会研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設（内科系） 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会研修施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター 日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本救急医学会専門医、指導医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 日本糖尿病学会教育施設

	日本肝臓学会認定施設 日本病院総合診療医学会 日本動脈硬化学会 など

19. 独立行政法人国立病院機構　災害医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・臨床研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生 法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保 険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本院の就 業規則等に従う。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シ ャワー室、当直室が整備されている。 ・院内の保育園が利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 19 名在籍している。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に 設置されるプログラ ム管理委員会と連携を図る。 ・医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2019 年度開催実績 12 回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そ のための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与える。 ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診 療している。 ・70 疾患群のうち、ほぼすべての疾患群について研修できる ・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完 もする。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究が可能である。 ・倫理委員会が設置されている。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 5 題の学会発表を行っている。 （2019 年度実績） ・内科系学会の講演会等で多数の学会発表を行っている。
指導責任者	大林 正人 【内科専攻医へのメッセージ】 　災害医療センター内科は、3 次救急病院である強みを生かした豊富な急性期症 例から稀少疾患まで研修が可能です。東京および周辺県の関連病院と連携して、 医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を 行う医師まで幅広い内科医を育成しています。 新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科 全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成するプログラムを 構築しました。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名，日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，　消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，　日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本感染症学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 3 名，ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者実数 79,179 名（年）　入院患者 5,227 名（年）
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患

	群 の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づ きながら幅広く経験することができる.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病 連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本血液学会認定血液研修施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本透析医学会認定医認定施設、 日本神経学会教育施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本消化器病学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本循環器学会専門医研修施設、 日本心血管インターベンション学会研修施設、 日本不整脈・心電学会認定不整脈専門医研修施設、 日本輸血細胞治療学会認定指定施設、 日本内科学会認定教育施設、 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など
年報	http://www.nho-dmc.jp/information/annual_report.html

20. 独立行政法人国立病院機構　東京病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人国立病院機構専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 21 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（統括診療部長）、プログラム管理者（呼吸器センター長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年 12 回）し、専攻医に受講を義務 付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医 に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、8 分野以上で定常的に専門研修 が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち少なくとも 49 以上の疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 10 体、2018 年度 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（年 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会（年 12 回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	松井　弘稔 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構東京病院は、東京都北多摩北部医療圏の中心的な急性期病院です。19 の標榜科を擁する 560 床の総合病院ですが、特に呼吸器内科については、昭和初期の結核療養所を起源とする長い歴史と伝統を有しています。現在では 300 床の呼吸器内科病床（一般病床 200 床，結核病床 100 床）を持ち、高 い技術を有する呼吸器外科と連携した、日本における有数の呼吸器診療医療機 関となっています。肺癌、閉塞性肺疾患（喘息、COPD）、びまん性肺疾患や肺 結核・非結核菌抗酸菌症を含む呼吸器感染症の他、アレルギー疾患の診療も得 意とし、subspecialty 専門医の取得にも重点的に取り組んでいます。また、消 化器内科、循環器内科、神経内科、感染症内科などについても専門医による指 導が行われており、当該科での subspecialty 専門医取得にも道が開けていま す。また，外科、放射線科、病理診断科との密な連携が形成されていることも 当院の特徴です。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医（内科）6 名、日本感染症学会専門医 3 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者数 102,919 人 入院患者実数 4,825 人 ※2020 年
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち 総合内科Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、消化器、循環器、呼吸器、神経、アレルギー、感染症、救急の 8 領域について症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきなが ら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療支援病院として、地域の中核病院としての機能を果たしていることから、病病・病診連携や地域の医療機関との交流を通して、地域医療の経験を深めることができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会教育施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 など

21. 独立行政法人国立病院機構　埼玉病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･国立病院機構埼玉病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課長担当）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 11 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：臨床研究部長　鈴木雅裕）を設置し、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ･基幹施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と専門医研修部を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2018 年度実績 13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス：朝霞地区医師会合同カンファレンス（2018 年度実績 8 回）、朝霞地区医師会循環器勉強会（2018 年度実績 5 回）、朝霞地区医師会画像診断研究会（2018 年度実績 17 回）、埼玉県南西部消防本部救急症例検討会（2018 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC（2018 年度実績２回） 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に専門医研修部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 4 体・・・新棟建設のため 6 ヶ月剖検中断、2017 年度実績 14 体、2016 年度実績 14 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究部が設置されており、リサーチマインドを涵養する研究環境が整っています ･臨床研究に必要な図書室、写真室、図書室、インターネット環境などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2018 年度実績 7 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2018 年度実績 11 回）しています。 ･内科系学会（日本内科学会とサブスペシャリティの学会）で年間計 22 演題会発表（2018 年度実績）をしています。 ･国立病院総合医学会が毎年開催されており、日常の臨床の成果等を発表する機会があります
指導責任者	小野　智彦 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構埼玉病院は、埼玉県南西部医療圏の中心的な急性期病院です。

	東京都との県境に位置（池袋から 10km）するため、埼玉県の近隣医療圏の病院（さいたま市立病院・JCHO 埼玉メディカルセンター、国立病院機構西埼玉中央病院）と都内の病院（慶應義塾大学病院・日本大学医学部附属板橋病院・杏林大学医学部付属病院・練馬総合病院・国立病院機構東京医療センター・国立病院機構災害医療センター・東京都済生会中央病院・国家公務員共済立川病院）と連携して内科専門研修を行います。地方の急性期病院である佐野厚生総合病院、慢性期病棟、地域包括ケア病棟のケアミックス型の病院である国立病院機構宇都宮病院とも連携し様々な経験を積むことができます。これらの病院での研修を通じて、多様な状況下で内科医としての能力を発揮する事のできる、地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します。 　主担当医として、患者の疾患の診断・治療に携わるのはもちろん、高齢者社会に向かいますます必要とされる患者の社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本救急医学会救急専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 24,504 名（1 ヶ月平均）　入院患者 12,918 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定病院 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設　など

22. 国立精神・神経医療研究センター病院

（作成中）

23. 東京都済生会中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（心の健康づくり相談室メンタルヘルスサポート）があります. ･ハラスメント対策が整備されています. ･女性専門医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 25 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する内科専門医研修管理委員会を設置します。その事務局として人材育成ンターが設置されています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度予定）し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ･CPC を定期的に開催（2022 年度実績 6 回）し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（医師会と合同主催の講演会や研究会）を定期的に開催し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ･プログラムに所属する全専門医に JMECC 受講（2025 年年度開催予定）を義務付け，そのための時間的猶予を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に人材育成センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 14 体，2022 年度 10 体）を行っています
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターなどを整備しています. ･倫理審査委員会を設置し，定期的に開催しています. ･臨床研究倫理審査委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	プログラム統括責任者：河合俊英 【内科専門医へのメッセージ】 東京都済生会中央病院は，東京都区中央部医療圏の中心的な急性期病院です．三次救急も行う救命センターもあり，病診連携を生かした地域連携病院として，大学病院では得られない豊富な症例を経験することができます．内科系プログラムは 30 年以上の歴史があり，すべての診療領域の内科研修を行い総合的な内科医として全人的医療を行える基礎の上に，さらにサブスペシャルティの専門医を目指す研修を行ってきました．現在では，このプログラムで研修された卒業生が，全国各地で専門医として，また地域診療を支える総合内科医として活躍しています．内科系研修は各診療科の主治医とチーム

	を組み受持医として担当し，専修医・研修医が同じ病棟で常に交流しながら教えあうことで研修を行ってきました．指導する主治医は内科指導医，各サブスペシャルティの専門医，臨床指導医であり，また，東京都済生会中央病院のプログラムを経験した医師も多くいます．大学や研究施設とは異なり，臨床に特化した研修を行ってきています． さらにプログラムの最大の特徴としては，これまでの研修においても行ってきたように，生活支援を必要とする患者さんが入院する病棟（以前の民生病棟）で総合診療内科ローテーションを行い，さらにチーフレジデントを経験することにより，病棟においては実務のリーダーとして，初期研修医の教育，コメディカルの指導を通じて，病棟運営にも参加することが可能です．この経験を通して，内科医としての総合力も身につけることは元より，内科専門医としての総仕上げを行うことが出来，他施設にはないユニークかつ魅力的なプログラムとなっています． 本プログラムでは，都区中央部医療圏の中心的な急性期病院である東京都済生会中央病院を基幹施設として，これまでのプログラムに加えて，さらに都区部医療圏，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は原則として，基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名，日本内科学会総合内科専門医 25 名，日本消化器病学会消化器専門医 11 名，日本循環器学会循環器専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 20 名，日本内分泌学会専門医 5 名，日本腎臓病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 10 名，日本神経学会神経内科専門医 10 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，日本リウマチ学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名（暫定指導医 1 名），日本肝臓学会肝臓病専門医 6 名，日本救急医学会救急科専門医 7 名，ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 11,200 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者数 7,093 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育認定病院 日本血液学会研修認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会認定教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本透析医学会専門医教育認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定施設

	日本腎臓学会研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本感染症学会研修施設 日本アレルギー学会準認定施設 など

24. 栃木県済生会宇都宮病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･栃木県済生会宇都宮病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処するためカウンセラーへの相談が可能です. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 17 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研 修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 2 回，医療安全 5 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年度 1 回開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に対応可能です.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能 な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2013 年度実績 17 体、2014 年度実績 14 体、2015 年度実績 9 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研修に必要な図書室を整備しています。文献検索：Uptodate、DynaMed、メディカルオンライン、医中誌等利用可能です。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ･臨床試験管理室、臨床研究実験室を設置しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）を予定しています.
指導責任者	増田 義洋 【内科専攻医へのメッセージ】 栃木県宇都宮市の中心的な急性期病院である済生会宇都宮病院を基幹施設とし て、近隣の医療圏および東京都にある連携施設で内科研修をおこない、急性期 医療から外来での管理まで包括的に対応できる内科専門医をめざします。連携 施設には地域医療を主にしている施設と県立がんセンター・複数の大学病院を 含んでおり、common disease から希少疾患まで、多くの症例を経験すること ができるのが特色です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名，日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 1 名，日

	本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 1,273 名（1 日平均） 入院患者数 1,358 名（月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾 患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基 づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病 病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本神経学会准教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本消化器病学会認定関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本アレルギー学会教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベーション治療学会認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

25. いわき市医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･いわき市常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･病院敷地内に保育所があり、夜間保育、病児・病後児保育も対応しています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 13 名、総合内科専門医は 6 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（杉）、プログラム管理者（杉）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2022 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、いわき地域救急医療合同カンファレンス、いわき市内循環器研究会、いわき市呼吸器研究会、消化器病症例検討会；2021 年度実績 43 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 6 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2016 年度 10 体、2017 年度 3 体、2018 年度 7 体、2020 年度 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021 年度実績 1 回）しています。 ･治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 1 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	杉　正文 【内科専攻医へのメッセージ】 いわき市医療センターは、2018 年 12 月 25 日にいわき市立総合磐城共立病院から名称を変更し新たな道を歩き始めました。医療設備も一新され、最新の機器が整備されました。 旧病院からの慈心妙手（慈しみの心を持って患者さんに接し、優れた医療技術を駆使して診察・治療を行う）を基本理念として診療を行います。 福島県いわき医療圏約 40 万人の中心的な急性期病院であり、いわき医療圏・近隣医療圏にある連携施設と大学病院で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑

	性のある地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医となります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本内分泌学会専門医数 0 名 日本糖尿病学会専門医 0 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会専門医 0 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名 日本心身医学会心療内科専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 18,179 名（1 か月平均）入院患者 13,104 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈・心電学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 など

26. さいたま市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である. ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・さいたま市非常勤医師として労働環境が保障されている. ・ハラスメント委員会がさいたま市役所に整備されている. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている. ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 26 名在籍している. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・消化器内科部長）、プログラム管理者（循環器内科部長）（ともに指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置する. ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し（2023 年度実績５回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える. ・CPC を定期的に開催し（2023 年度実績 4 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える. ・地域参加型のカンファレンス（さいたま市立病院・JCHO 埼玉メディカルセンター合同カンファレンス（年３回）、浦和循環器勉強会（年１回）、臓器保護研究会（年１回）、消化器病診連携勉強会（年１回）、肺癌症例検討会（年１回）、さいたま市神経カンファレンス（年３回）、Neurology Frontier in Saitama（年１回）、さいたま神経生理てんかん研究会（年１回）、浦和医師会合同糖尿病勉強会（年２回）、糖尿病プライマリーケア研究会（年２回）、さいたま血液勉強会（年２回）、さいたま市リウマチ合同カンファレンス（年４回））を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度実績 2 回：受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与える. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応する.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できる. ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 16 体、2022 年度 16 体、2023 年度 10 体）を行っている.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、コンピュータ室などを準備している. ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023 年度実績 10 回)している. ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023 年度実績 12 回)している. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表をしている.
指導責任者	金子　文彦（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 さいたま市立病院は、埼玉県さいたま医療圏の中心的な急性期病院であり、同じくさいたま医療圏の中心的な病院であるさいたま赤十字病院、JCHO 埼玉メディカルセンター、さいたま市民医療センター、あるいは同じ県内で隣接医療圏の中心的な病院である独立行政法人国立病院機構埼玉病院、北里大学メディカルセンターと病院群を組むことにより連携し、相互補完しながら、質の高いきめ細かな指導を行っていきます. これら病院は、距離的にも適度

	な位置関係にあり、合同カンファレンスを行う上での利便性はもちろんのこと、専攻医は研修期間の 3 年間を通して転居することなく、これらいずれの病院でも研修が可能です.　加えて、都内でも東京都済生会中央病院、国家公務員共済組合連合会立川病院と連携しており、異なる医療圏内での研修も可能です. 栃木県の医療過疎地域の連携病院である足利赤十字病院や佐野厚生総合病院での研修も可能で、地域の医療を一手にささえる総合病院の医療を経験し、研修することもできます. さらに、慶応義塾大学病院、東京女子医大病院、杏林大学病院と連携し、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできます. 令和 6 年度からは、さらに埼玉医科大学総合医療センターや佐野厚生総合病院とも連携を開始しています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名、日本消化器病学会専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者　265,824 名　　入院患者　16,310 名
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら、幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設

27. 横浜市立市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･横浜市非常勤職職員として労務環境が保障されています. ･職員の健康管理・福利厚生を担当する部署（総務課職員係）があります. ・ハラスメント対策が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用が可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・新基準による指導医が 37 名在籍しています. ・内科専門研修管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設、連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績 医療安全 18 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2019 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（2017 年度実績 横浜西部肝疾患セミナー３回、肺癌読影会６回等），専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する専攻医に JMECC 受講（2017 年度当院開催済み・受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査には原則内科専門研修プログラム責任者及び事務局が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器，循環器，呼吸器，腎臓，神経，内分泌，代謝，血液，感染症，膠原病、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうち、ほぼ全疾患群について研修可能です. ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 14 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 ４演題）をしています. ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに，英文・和文論文の筆頭著者として執筆する機会があり，学術的な指導を受けることができます. ・臨床試験管理室を設置し，定期的に受託研究審査委員会を開催しています 2017 年度実績 11 演題）. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています（2017 年度実績 11 回）. ・利益相反委員会（COI 委員会）を設置し，定期的に開催しています（2017 年度実績 ５回）.
指導責任者	仲里　朝周（副病院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 自他ともに認める高度急性期医療を担っている病院で，救命救急センター，地域がん診療連携拠点病院，第一種感染症指定医療機関，国の地域周産期母子医療センター，地域医療支援病院に指定されているなど，日常よく遭遇する

	common disease から高度な医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積むことができます.質の高い内科医となるだけでなく，医療安全を重視し，地域の中核病院として病診連携，病病連携を経験して患者さんの社会的背景，療養環境に配慮した医療を行うことができる内科医を育成することを目指しています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 37 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名，日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本肝臓学会肝臓専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本血液学会血液専門医 3 名，日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本腎臓学会腎臓専門医 4 名，日本透析医学会透析専門医 3 名，日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名，日本感染症学会感染症専門医 2 名，日本緩和医療学会緩和専門医 1 名
外来・入院患者数	（2017 年度）内科系全体の外来患者延べ数　126,699 人/年、内科系全体の退院患者数　7,835 人/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本透析医学会認定医制度専門医修練施設 日本血液学会認定研修施設 日本骨髄移植推進財団認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本神経学会専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　など

28. 川崎市立川崎病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・ 初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されている。 ・ 川崎市会計年度任用職員として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（川崎市総務部担当）がある。 ・ ハラスメントに対しては職員衛生委員会が病院に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 35 名在籍している（2021 年 7 月現在）。 ・ 内科専攻医研修管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている（2019 年度：医療安全 6 回、感染対策 7 回）。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2021 年度予定）を定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている（2019 年度：5 回）。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている（2019 年度：全 7 回、うち内科 2 回）。 ・ JMECC を年 1 回院内で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている（2020 年度実績：1 回）。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、リウマチ膠原病、アレルギー、感染症、救急の各分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表を目標とし実行している（2020 年度：地方会 5 演題、総会 3 演題。2019 年度：地方会 9 演題。2018 年度：地方会 8 演題、総会 1 演題）。
指導責任者	野崎博之（院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎市立川崎病院は川崎市南部医療圏の中核的な急性期病院です。Common disease の診療はもとより、高度の専門性を要する疾患、超高齢社会ならではの複数の病態を持った患者の診療や、高次病院や地域病院との病病連携、診療所 （在宅訪問診療所を含む）との病診連携を経験できます。 主担当医として、入院から退院（初診・入院から退院・通院）までを継続的に診療し、一人一人の患者の全身状態、社会的背景、療養環境調整をも含めた全人 的医療を実践できます（内科各分野をローテーションするのではなく、一人の患者に継続して携わることを重視しています）。 救命救急センターがあり、三次救急の診療および集中治療を要する内科系疾患 の診療を経験できます。 各分野に専門スタッフがおり、気軽に相談できる環境です。分野ごとに多数のカ ンファレンスや回診を行っています。一方、内科１科としてのまとまりを大切に しており、内科全体でのカンファレンスも開催しています。 研究会、講演会、講習会、学会など、知識を習得する機会が豊富にあります。臨床研究を支援する部署があり、院外での研究会や学会での発表、論文の執筆を通して、リサーチマインドの素養の習得と発表能力を高めることができます。 消化器内視鏡検査、気管支鏡検査、超音波検査（腹部・心臓・関節）、心臓カテーテル検査、脳波、筋電図、血液透析など、希望に応じた専門的研修を受け

	る ことができます。 当院の特色は、内科 1 科としてのまとまりと高い専門性の両立です。内科医の基 礎となる知識と技能を備え、ホスピタリストやかかりつけ医として活躍でき、かつ内科救急医療にも対応できる内科総合診療医（general physician）の育成を目指しています。また各分野の subspecialty 研修も可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 35 名、日本内科学会認定内科医 37 名、日本内科学会認定総合内科専門医 20 名、日本消化器病学会認定消化器病専門医 5 名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 4 名、日本循環器学会認定循環器専門医 6 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本糖尿病学会糖尿病専 門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会認定血液専門医 2 名、日本神経学会認定神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会認定アレルギー 専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会感染症専門医 2 名、 老年医学会老年病専門医 0 名、日本救急医学会認定救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4 名（2021 年 7 月）
外来・入院患者数	外来患者延数 266,242 名/年（内科 92,465 名/年）、入院患者数 425.2 名/日（内科 184.1 名/日）、新入院患者数 12,375 名/年（内科 4,476 名/年）（2020 年度）
経験できる疾患群	J-OSLER（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	J-OSLER にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会を反映した地域に根ざした医療や、病診・病病連携などを経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会新専門医制度基幹施設（旧・日本内科学会認定教育病院） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本腎臓学会認定医研修施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院 日本認知症学会認定教育施設 日本胆道学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本高血圧学会認定研修施設 など

29. 平塚市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 常勤医師として採用され，安定した身分保障および労務環境が整えられています. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります. ・ ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当 直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり，週 2 日は 24 時間利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 内科学会指導医が 16 名（2024 年度）在籍しています. ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 医療倫理 1 回， 医療安全 10 回，感染対策 14 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をとります. ・ 研修施設群合同カンファレンス（2021 年度予定）を予定し，専攻医に受講を義務付 け，そのための時間的余裕をとります. ・ CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をとります. ・ 地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 4 回，全診療科含め 22 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をとります.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓， 呼吸器，神経，感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています． また，血液，膠原病についても非常勤医師の指導の下，外来入院診療を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度 実績 8 演題）をしています.
指導責任者	高木　俊介（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で，専攻医は自治体病院常勤医師として安定した身分が保証されています. 高度急性期，急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで，市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます. 平成28年度に新棟がオープンし，ゆったりとした外来・病棟，最新の設備を備えた救命病床やICU/CCU，外来化学療法室・透析室・手術室，広いリハビリ室などが新棟内に設置されています．また320列CTやIVR-CTなどの先進機器に加えて，新棟開設に伴い最新鋭のリニアックも設置され，県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制も整っています. 内科の広範な診療を支えるため，主な領域には常勤指導医がおり，また血液・リウマチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます．放射線科や外科系診療科のスタッフも充実しており，救急医療に関しては，平塚市民病院救命救急センターを有し救急科専門医を中心に湘南西部地域の中心病院として高度急性期疾患にも対応しています. さまざまなカテゴリーの内科疾患を一症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる，充実した専門医研修を目指しています.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医16名，日本内科学会総合内科専門医12名 日本消化器病学会消化器専門医3名，日本肝臓学会肝臓専門医2名 日本消化器内視鏡学会専門医3名，日本循環器学会循環器専門医5名 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，日本神経学会神経内科専門医3名， 日本救急医学会救急科専門医 6 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 18,718 名(1ヶ月平均)　入院患者 353 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	高度急性期，急性期医療のほか，回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療，さらには高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設 日本IVR学会専門医修練施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳神経学会専門医研修施設 厚生労働省指定臨床研修病院 など

30. 日野市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･日野市立病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ･ハラスメント委員会が日野市立病院に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･病院と連携している暁愛児園（保育園）が近傍にあり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が９名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置される専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 4 回（複数回開催），医療安全 9 回（各複数回開催），感染対策 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2014 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス：多摩地区呼吸器合同カンファレンス（毎週金曜日）、日野市医師会・腎臓病勉強会（年 1 回、計 11 回）、日野市立病院・多摩総合医療センター合同糖尿病勉強会（2015 年 2 月開始）、慶應多摩内科医会（年 1 回、計 24 回）、多摩腎臓高血圧研究会（年 1 回、計 17 回）、日野市地域医療連携協議会（3 ヶ月に 1 回）などを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）．日本腎臓学会、日本内分泌学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会、日本透析医学会、日本臨床血液学会などにも実績があります (http://hospital.city.hino.tokyo.jp/recruit/latter_resident/index.html)．
指導責任者	中村　岩男 【内科専攻医へのメッセージ】 　日野市立病院は日野市民 18 万人を支える急性期病院であり、腎臓内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科の専門的医療を中心に内科のすべての分野の診療を地域の施設と連携して行っております．腎臓内科に関しては、腎生検、腎病理カンファレンス、血液浄化法のすべてを経験する環境が整っており専門的な指導ができます．呼吸器内科は肺癌、間質性肺疾患などに関して地域で有数の症例を有しており専門家が指導できます．消化器内科に関しては、消化管や肝胆膵疾患全般、特に内視鏡による専門的治療、炎症性腸疾患、癌化学療法などに取り組んでおります．循環器内科は、カテーテル治療、ペースメーカ植え込みなど、虚血性心疾患および不整脈の急性期治療を行っております. 　2008 年より卒後 3 年目の内科医研修を受け入れ、全国から内科専攻医が継続して赴任し、当院の内科研修中と研修歴のある医師を含めると 2015 年度は総数 7 名が勤務しております. 　日野市内の内科のすべての分野の患者が当院に来院しますので幅広い範囲の

	症例の経験ができ、臓器に特化しない幅広い内科全般の研修をする環境が整っております．慶應義塾大学病院、杏林大学病院から、血液内科、神経内科、リウマチ内科、糖尿病の専門医が外来パートに来ており常勤医不在の分野の研修も担保しております． 　また主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名，日本消化器病学会専門医 2 名，日本循環器学会専門医 6 名，日本腎臓病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会専門医 2 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 1 名，日本肝臓学会認定肝臓専門医 1 名，日本透析医学会専門医 2 名，日本高血圧学会指導医 1 名 ほか
外来・入院患者数	2014 年度（1 ヶ月平均）：　外来患者 5,307 名、救急車受け入れ 112 名、入院患者 175 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます． ・日野市地域医療連携協議会では、かかりつけ医、日野市立病院の主治医、地域介護職員などが参加し、看取りの医療、病診連携についての幅広い研修ができます． ・災害拠点病院であり日野医師会や南多摩地区との合同災害訓練に参加し地域の災害医療について研修できます（年 1 回、2015 年 10 月 25 日、2016 年 12 月 4 日）
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会専門医指定施設　など

31. 足利赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･足利赤十字病院の後期臨床研修医（専攻医）として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する内・外の対応窓口があります. ･ハラスメント防止委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 18 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長），プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群を含む合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2019 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（医師会と合同開催の講演会や研究会）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2019 年度開催実績 1 回：受講者 10 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 12 体，2019 年度 13 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2019 年度実績 11 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	室久 俊光 院長（消化器内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 足利赤十字病院は、栃木県県南部に位置し、両毛医療圏（人口約 80 万人）における地域中核病院であります。平成 23 年 7 月より一般病棟全室個室、最新設備の高度先端医療機器を備えた新しい病院が稼働しており、稼働率は常に 93%以上を維持しております。3 次救命救急センターを整備し、急性期疾患に対してチーム医療で迅速に対応し、高度で質の高い安全な医療を提供しています。また、地域医療支援病院として地域医療機関との密接な病診連携を縦横に結び、紹介率も約 74%以上、平均在院日数も 15 日前後となり、地域の医療機関の機能分担と連携の促進がなされています。このような環境の中で、チーム医療による臨床研修を日々行っており、各科の診療部長の協力と教育への熱意により

	プログラムが運行されています。専攻医の要望・改善要項についても聞き入れる機会を設けて、指導医へフィードバックしています。 更に、当院は平成 27 年 2 月には医療施設の国際的な認証機関である JCI（Joint Commission International）の認証を、赤十字病院として初めて、国内では 9 番目に取得し、医療の安全、質の向上にも積極的に取り組んでおります。このように、専攻医の臨床研修を行う良い環境を整えております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医・認定内科医 13 名，日本内科学会総合内科専門医 3 名，日本肝臓学会専門医 2 名，日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，日本内分泌学会専門医 0 名，日本腎臓学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 0 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 0 名，日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医（内科）0 名，日本リウマチ学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 0 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名，ほか。内分泌、糖尿病、血液は非常勤指導医がおります。
外来・入院患者数	外来患者 23,606 名（1,967 名／月平均） 入院患者 12,831 名（1,069 名／月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院 日本透析医学会教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本腎臓財団実習指定病院 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録参加認定施設 日本気管食道科学会研修施設（咽喉系） 日本麻酔科学会認定病院 日本ＩＶＲ学会修練施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本医療機能評価機構認定病院 Ver6.0 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定施設 日本認知症学会教育施設認定施設

	日本人間ドック学会人間ドック健診施設機能評価 Ver3.0 日本脈管学会専門医制度研修関連施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 など

32. 静岡赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･静岡赤十字病院常勤あるいは非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 17 名在籍しています。 ･プログラム管理委員会（2017 年度中に設置予定）で、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会（2016 年度に設置予定）があります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 29 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群内科合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻 13 医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、その ための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型内科合同カンファレンス（2015 年度実績 40 回程度）を定期的に開催 し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 5 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上） で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修でき ます。 ･専門研修に必要な剖検（2015 年度 12 体、2016 年度実績 13 体、2017 年度 13 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2017 年度実績 4 回）しています。 ･治験委員会を設置し、定期的に開催（2017 年度実績 6 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】久保田英司（副院長） 本プログラムは、静岡県静岡市医療圏の急性期病 院である静岡赤十字病院を基幹施設として、近隣の連携施設と協力し、将来的に 静岡県内だけでなく日本全国で活躍できる「主治医機能」をもった内科専門医の 養成を基本理念としています。主治医機能とは、患者の持つ全ての病気を抽出・管理し、それに対して診療責任を持つ医師の役割のことです。主治医機能とは、単に「自分が主治医である」というような想いや感情のみで達成されるものではなく、主治医機能を発揮するために作られた診療方式を常日頃から訓練・実践することにより達成されると考えています。本プログラムでは、主治医機能を発揮するために作られたカルテ記載方式兼診療思考方式である「総合プロブレム方式」を修得することができます。また、本プログラム専門研修施設群での 3 年間 の研修で、内科指導医の指導の下、内科専門医制度研修カリ

	キュラムに定められ た研修を通じ、内科学的基本的臨床能力も併せて修得することがでます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門指導医 1 名、日本内分泌代謝学会指導医 1 名、 日本腎臓病学会専門医１名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科指導医 5 名、 日本アレルギー学会専門医（小児科）1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本日本感染症学会インフェクションコントロールドクター1 名、 日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	延外来患者 6,158 名、入院患者 275 名（いずれも 2017 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、「研修手帳」（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育準施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本静脈経腸栄養施設認定 NST 稼働施設 など

33. 佐野厚生総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・佐野厚生総合病院 常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する産業医、安全衛生委員会があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、 休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・病院が運営している、つぼみ保育園が敷地内にあり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 10 名在籍しています。(下記) 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全（基幹施設 2018 年度実績 2 回)、感染防御に関する講習会（基幹施設 2018 年度実績 2 回）※内科専攻医は年に 2 回以上受講します。 CPC（基幹施設 2018 年度実績 5 回） 研修施設群合同カンファレンス（2019 年度：1 回開催予定） 地域参加型のカンファレンス（2018 年度：紹介症例報告会 1 回、地域がん診療連携合同カンファレンス 1 回、多種職交流会 2 回） JMECC 受講（2019 年度：1 回、7 名終了） 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照） など 地域参加型のカンファレンス：佐野内科医会、わたらせ地区医療連携講演会、佐野糖尿病懇話会、佐野肝臓病勉強会、佐野足利呼吸器勉強会 など
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 3 演題)、日本腎臓学会、日本内分泌学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会、日本透析医学会などにも実績があります
指導責任者	内科主任部長：井上 卓（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 佐野厚生総合病院は佐野市民 12 万人を支える急性期病院であり、消化器内科・腎臓内科・糖尿病内科・呼吸器内科・循環器内科の専門的医療を中心に内科のすべての分野の診療を地域の施設と連携して行っております。消化器内科に関しては、消化管や肝胆膵疾患全般、特に内視鏡による専門的治療・炎症性腸疾患・癌化学療法などに取り組んでおります。腎臓内科に関しては、腎生検・腎病理カンファレンス・血液浄化法のすべてを経験する環境が整っており専門的な指導ができます。呼吸器内科は、肺癌・間質性肺疾患などに関して地域で有数の症例を有しており専門家が指導できます。循環器内科は、カテーテル治療・ペースメーカ植え込みなど、虚血性心疾患および不整脈の急性期治療を行っております。 初期研修は 9 年連続フルマッチであり、11 人の初期研修医がおります。また、慶應義塾大学内科学教室から学生研修を受け入れております。 佐野市内の内科のすべての分野の患者が第一に当院に来院しますので、幅広い範囲の症例の経験ができ、臓器に特化しない幅広い内科全般の研修をする環境が整っております。慶應義塾大学病院・自治医科大学・獨協医科大学から、血液内科・神経内科・リウマチ内科の専門医が外来パートに来ており常勤医不在の分野の研修も担保しております。 また主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、 日本消化器病学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 3 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本高血圧学会指導医 2 名　など
外来・入院患者数	2018 年度（1 ヶ月平均）: 外来患者＝5,709 名、救急車受け入れ＝160 名、入院患者＝301 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域・70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病々連携なども経験できます。 ・佐野市地域医療連携協議会では、かかりつけ医・佐野厚生総合病院の主治医・地域介護職員などが参加し、看取りの医療、病診連携についての幅広い研修ができます。 ・県からの要請があり、2018 年 3 月に DMAT が立ち上がり、2020 年度の災害拠点病院取得をめざしております。また、佐野市役所との連携のなかで、2020 年度にへき地医療拠点病院取得を目指しております。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会教育関連病院 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本腎臓学会研修施設（2018 年 4 月から） ・日本糖尿病学会教育施設 ・日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本循環器学会指定循環器研修施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 ・日本透析医学会専門医制度認定施設（2018 年 4 月から） ・日本高血圧学会専門医認定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修病院 ・日本緩和医療学会認定研修施設　など

34. 独立行政法人地域医療機能推進機構　埼玉メディカルセンター

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります ･JCHO 埼玉メディカルセンターの常勤医師として労務環境が保障され ています。 ･セクシャルハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シ ャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 22 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：副院長 山路安義　プログラム管理者　内科部長　上田壮一郎）を設置し、基幹施設、連携施設 に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ･基幹施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え ます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス：JCHO 埼玉メディカルセンター・さいたま市立病院・浦和医師会合同カンファレンス（年３回）、浦和医師会内科医会消化器カンファレンス(年 1~2 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分 野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備していま す。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 10 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に IRB 委員会を開催（2023 年度実績 10 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発 表（2023 年度実績）をしています
指導責任者	山路　安義（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO 埼玉メディカルセンターは、首都圏の政令指定都市であるさいたま市の基幹病院です。さいたま市は人口 127 万人の大都市ですが、 390 床以上の病院は当院を含め 4 病院しかありません。また当院は、JR 北浦和駅より徒歩 3 分と交通の便がよく外来患者が 1 日 1300 人 と 多く、common disease からまれな疾患まで、多くの疾患を経験することができます。当院のプログラムでは近隣の基幹病院であるさいたま 市立病院、さいたま市民医療センター、そして地域の大学病院である自治医大大宮医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、東京の慶応大学病院と連携し、いずれも転居せずに 3 年間研修が可能で

	あり、地域医療と高度医療を幅広く経験することができます。
指導医数 （常勤医）	（常勤医） 日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名、日本 消 化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日 本神経学会神経内科専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 5 名、日本血液学会専 門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 32,418 名（1 ヶ月平均） 入院患者 17,102 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、 30 疾患群 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、 30 疾患群 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域包括ケア病棟、 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育病院 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会専門医教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定施設 など

35. 公立阿伎留医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専門医の環境	･初期臨床研修制度基幹型＋協力型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事係）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 12 名在籍しています（下記）。 ･研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのため の時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、その ための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績地元医師会合同勉強会 12 回）を定 期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	樫田 光夫 【内科専攻医へのメッセージ】 公立阿伎留医療センターは西多摩の南側、秋川流域の広大な地域を医療圏とする急性期病院です。東京都にありながら、自然豊かな場所に立地し、都心からは距離がありますが、圏央道のインターから５分、JR 五日市線武蔵引田駅から徒歩５分とアクセスは良い場所にあります。２次・１次救急を中心とした急性期医療を根幹とし、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟（本年開棟予定）を備えた多くの機能を持った病院です。内科各科の指導医も豊富であり、地域医療を幅広く体感できる研修が行えますので、充実した後期研修が行えると考えております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 172,672 人（年、延） 入院患者 4,314 名（年、実数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、緩和ケアや回復期リハビリテーションなど地域医療を幅広く経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 など

36. 榊原記念財団附属　榊原記念病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とｲﾝﾀｰﾈｯﾄ環境があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，ｼｬﾜｰ室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所，病児保育があります. ・病院 6 階に専攻医宿舎を完備しており，独身者であれば利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 15 名在籍しています. ・循環器内科の研修では CCU，心臓ｶﾃｰﾃﾙ検査・治療(PCI，末梢血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ)，心臓電気生理検査・治療(ｶﾃｰﾃﾙｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝ，植込みﾃﾞﾊﾞｲｽ)，心ｴｺｰ検査，放射線画像診断，心臓ﾘﾊﾋﾞﾘを研修できます．また，各種回診，各種ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ（内科ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ，榊原ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ，心ｴｺｰｶﾝﾌｧﾚﾝｽ，手術検討会，ｼﾈ検討会），ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ教育講演，外部講師による定例講演会などが行われます. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理　3 回，医療安全 12 回，感染対策 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のｶﾝﾌｧﾚﾝｽ「神明台ﾊｰﾄｾﾐﾅｰ」（2015 年度実績 9 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 【整備基準 31】 3)診療経験の環境	ｶﾘｷｭﾗﾑに示す内科領域 13 分野のうち，循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 1 演題）を行っています．卒後 3～6 年目の内科専門研修中の医師が筆頭演者の内科系学会での発表数は，2015 年度実績として約 20 件あり，学術活動をより多く経験できるよう指導しています.
指導責任者	関口　幸夫 【内科専攻医へのﾒｯｾｰｼﾞ】 　榊原記念病院は東京都北多摩南部地域の循環器専門の地域医療支援病院であり，立川病院の内科専門研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの連携施設として循環器内科研修を行い，内科専門医の育成を行います．当院は開心術数が日本で唯一年間 1000 件を超えるなど，豊富な症例数を誇っています．　指導医は心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ，心不全，不整脈（ｶﾃｰﾃﾙｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝ），ICD やﾍﾟｰｽﾒｰｶ植え込み，心ｴｺｰ，画像診断（CT/MRI/核医学），心臓ﾘﾊﾋﾞﾘなど各領域の専門家がそろっており，循環器診療においてほぼすべての領域をｶﾊﾞｰできます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　15 名（予定），日本内科学会総合内科専門医　3 名，日本循環器学会循環器専門医　21 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,910 名（1 ヶ月平均）　入院患者 514 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある循環器領域，10 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な循環器領域の技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設 （三学会：日本胸部外科学会，日本心臓血管外科学会，日本血管外科学会） 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 胸部ｽﾃﾝﾄｸﾞﾗﾌﾄ実施施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会認定施設 日本内科学会認定制度教育特殊施設 日本小児循環器学会認定小児循環器専門医修練施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本臨床薬理学会専門医制度研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 学外研修医療機関（昭和大学） 下肢静脈瘤に対する血管内ﾚｰｻﾞｰ焼灼術の実施基準による実施施設 日本核医学学会認定専門医教育病院 日本脈管学会認定研修指定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本高血圧学会認定専門医認定施設 腹部ｽﾃﾝﾄｸﾞﾗﾌﾄ実施施設 経ｶﾃｰﾃﾙ的大動脈弁置換術実施施設 日本臨床薬理学会専門医制度研修施設　など

○立川病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 4 月現在）

【立川病院（基幹施設）委員】	
プログラム統括責任者・プログラム管理委員会委員長	森谷　和徳
研修管理委員会委員長	黄　英文
消化器分野 責任者	古宮　憲一
脳神経分野 責任者	服部　英典
内分泌・代謝分野 責任者	矢島　賢
循環器・救急分野 責任者	影山　智己
呼吸器・アレルギー・感染・一般分野 責任者	舩津　洋平
血液分野 責任者	外山　高朗
腎臓・膠原病分野 責任者	二木　功治
名誉院長	三田村　秀雄
事務局	中島　芳裕
事務局	高安　真琴
【連携施設担当委員】	
慶應義塾大学病院	貞廣　威太郎
杏林大学医学部付属病院	田村　仁樹
埼玉医科大学国際医療センター	水出　雅文
国際医療福祉大学市川総合病院	大木　貴博
東海大学医学部付属八王子病院	横山　健次
国家公務員共済組合連合会　虎の門病院	森　保道
国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院	渡辺　秀樹
国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院	岡　裕之
国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院	岩城　卓
国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院	小林　一士
国家公務員共済組合連合会　大手前病院	杉浦　寿央
国家公務員共済組合連合会　浜の町病院	吉澤　誠司
国家公務員共済組合連合会　斗南病院	北城　秀司
国家公務員共済組合連合会　北陸病院	道下　泰克
国家公務員共済組合連合会　舞鶴共済病院	湯地　雄一郎
国家公務員共済組合連合会　三宿病院	増岡　和宏
ＫＫＲ札幌医療センター（国家公務員共済組合連合会）	渡部　拓
独立行政法人国立病院機構　東京医療センター	上野　博則
独立行政法人国立病院機構　災害医療センター	大林　正人
独立行政法人国立病院機構　東京病院	佐々木　結花
独立行政法人国立病院機構　埼玉病院	小野　智彦
国立・精神神経医療研究センター	長田　高志
東京都済生会中央病院	髙橋　寿由樹
栃木県済生会宇都宮病院	田原　利行
いわき市医療センター	杉　正文
さいたま市立病院	金子　文彦
横浜市立市民病院	仲里　朝周
川崎市立川崎病院	高木　英恵
平塚市民病院	高木　俊介
日野市立病院	中村　岩男

足利赤十字病院	室久　俊光
静岡赤十字病院	久保田　英司
佐野厚生総合病院	井上　卓
ＪＣＨＯ埼玉メディカルセンター	山路　安義
公立阿伎留医療センター	八田　善弘
榊原記念財団附属　榊原記念病院	七里　守
【オブザーバー】	
内科専攻医代表１	
内科専攻医代表２	

国家公務員共済組合連合会 立川病院

内科専門研修プログラム

専攻医マニュアル

（2027 年度版）

整備基準 44 に対応



TACHIKAWA
HOSPITAL

立川病院　内科専門研修プログラム　専攻医マニュアル

目次

・専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先
・専門研修の期間
・研修施設群の各施設名
・プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名
・各施設での研修内容と期間
・本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数
・年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安
・自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期
・プログラム修了の基準
・専門医申請にむけての手順
・プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇
・プログラムの特色
・継続した Subspecialty 領域の研修の可否
・逆評価の方法とプログラム改良姿勢
・研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先
・その他

● 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，
地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
内科系救急医療の専門医
病院での総合内科（Generality）の専門医
総合内科的視点を持ったSubspecialist
に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．
立川病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養とGeneralなマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，東京都北多摩西部二次医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者はSubspecialty領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です。

● 専門研修の期間

＜研修モデルプラン＞

<table>
<tr><td rowspan="8">【専攻医１年目】
（基幹施設）</td><td>消化器</td><td rowspan="8">総合内科
膠原病
感染症
救急
（領域横断的に
研修）</td></tr>
<tr><td>循環器</td></tr>
<tr><td>腎臓</td></tr>
<tr><td>内分泌・代謝</td></tr>
<tr><td>呼吸器・アレルギー</td></tr>
<tr><td>血液</td></tr>
<tr><td>神経</td></tr>
<tr><td colspan="2">【連携施設群】

慶應義塾大学病院
杏林大学医学部付属病院
埼玉医科大学国際医療センター
国際医療福祉大学市川総合病院
東海大学医学部付属八王子病院
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院
国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院
国家公務員共済組合連合会 大手前病院
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
国家公務員共済組合連合会 斗南病院
国家公務員共済組合連合会 北陸病院
国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院
国家公務員共済組合連合会 三宿病院
KKR 札幌医療センター（国家公務員共済組合連合会）
独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
独立行政法人国立病院機構 災害医療センター
独立行政法人国立病院機構 東京病院
独立行政法人国立病院機構 埼玉病院
国立精神・神経医療研究センター病院
東京都済生会中央病院
栃木県済生会宇都宮病院
いわき市医療センター
さいたま市立病院
横浜市立市民病院
川崎市立川崎病院
平塚市民病院
日野市立病院
足利赤十字病院
静岡赤十字病院</td><td>【専攻医２年目】
（基幹施設・連携施設）</td></tr>
</table>

	佐野厚生総合病院 JCHO 埼玉メディカルセンター 公立阿伎留医療センター 榊原記念財団附属　榊原記念病院
【専攻医３年目】 （基幹施設・連携施設	基幹施設あるいは連携施設での内科研修 ＊研修達成度により Subspecialty 研修を考慮

専攻医 1 年目は基幹施設である立川病院内科で内科専門研修を行う予定です。
専攻医 1 年目の秋頃には、専攻医の希望・将来像・研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専攻医 2 年目以降の研修施設を調整し決定する予定です。研修先は個々人により異なります。なおこの間は，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

● 研修施設群の各施設名

【基幹施設】
国家公務員共済組合連合会　立川病院

【連携施設】
慶應義塾大学病院
杏林大学医学部付属病院
埼玉医科大学国際医療センター
国際医療福祉大学市川総合病院
東海大学医学部付属八王子病院
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院
国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院
国家公務員共済組合連合会 大手前病院
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院
国家公務員共済組合連合会 斗南病院
国家公務員共済組合連合会 北陸病院
国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院
国家公務員共済組合連合会 三宿病院
KKR 札幌医療センター（国家公務員共済組合連合会）
独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
独立行政法人国立病院機構 災害医療センター

独立行政法人国立病院機構 東京病院
独立行政法人国立病院機構 埼玉病院
国立・精神神経医療研究センター病院
東京都済生会中央病院
栃木県済生会宇都宮病院
いわき市医療センター
さいたま市立病院
横浜市立市民病院
川崎市立川崎病院
平塚市民病院
日野市立病院
足利赤十字病院
静岡赤十字病院
佐野厚生総合病院
JCHO 埼玉メディカルセンター
公立阿伎留医療センター
榊原記念財団附属　榊原記念病院

● プログラムに関わる委員会と委員

立川病院　内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 4 月現在）

【立川病院（基幹施設）委員】	
プログラム統括責任者・プログラム管理委員会委員長	森谷　和徳
研修管理委員会委員長	黄　英文
消化器分野 責任者	古宮　憲一
脳神経分野 責任者	服部　英典
内分泌・代謝分野 責任者	矢島　賢
循環器・救急分野 責任者	影山　智己
呼吸器・アレルギー・感染・一般分野 責任者	舩津　洋平
血液分野 責任者	外山　高朗
腎臓・膠原病分野 責任者	二木　功治
名誉院長	三田村　秀雄
事務局	中島　芳裕
事務局	高安　真琴
【連携施設担当委員】	
慶應義塾大学病院	貞廣　威太郎
杏林大学医学部付属病院	田村　仁樹
埼玉医科大学国際医療センター	水出　雅文
東京歯科大学市川総合病院	大木　貴博
東海大学医学部付属八王子病院	横山　健次
国家公務員共済組合連合会　虎の門病院	森　保道
国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院	渡辺　秀樹
国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院	岡　裕之
国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院	岩城　卓
国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院	小林　一士
国家公務員共済組合連合会　大手前病院	杉浦　寿央
国家公務員共済組合連合会　浜の町病院	吉澤　誠司
国家公務員共済組合連合会　斗南病院	北城　秀司
国家公務員共済組合連合会　北陸病院	道下　泰克
国家公務員共済組合連合会　舞鶴共済病院	湯地　雄一郎
国家公務員共済組合連合会　三宿病院	増岡　和宏
ＫＫＲ札幌医療センター（国家公務員共済組合連合会）	渡部　拓
独立行政法人国立病院機構　東京医療センター	上野　博則
独立行政法人国立病院機構　災害医療センター	大林　正人
独立行政法人国立病院機構　東京病院	佐々木　結花
独立行政法人国立病院機構　埼玉病院	小野　智彦
国立・精神神経医療研究センター	長田　高志
東京都済生会中央病院	髙橋　寿由樹
栃木県済生会宇都宮病院	田原　利行
いわき市医療センター	杉　正文
さいたま市立病院	金子　文彦

横浜市立市民病院	仲里　朝周
川崎市立川崎病院	高木　英恵
平塚市民病院	高木　俊介
日野市立病院	中村　岩男
足利赤十字病院	室久　俊光
静岡赤十字病院	久保田　英司
佐野厚生総合病院	井上　卓
ＪＣＨＯ埼玉メディカルセンター	山路　安義
公立阿伎留医療センター	八田　善弘
榊原記念財団附属　榊原記念病院	七里　守
【オブザーバー】	
内科専攻医代表１	
内科専攻医代表２	

● 各施設での研修内容と期間

基本的なコースの説明です。基幹施設である立川病院内科で，専門研修（専攻医）1 年目専門研修を行います。専攻医 1 年目の秋頃に専攻医の希望・将来像・研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2 年目の研修施設を立川病院内科専門医研修プログラム連携施設群の中から調整し決定します。研修先は個々人により異なります（必ずしも本人の希望通りになる訳ではありません）。３年目には再度立川病院で研修を行います。なおこの間は，研修達成度によってはSubspecialty 研修も用意します。　＊ 2）専門研修の期間 参照

● 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である立川病院診療科別診療実績を以下の表に示します。
立川病院は地域基幹病院であり，コモンディジーズを中心に診療しています。

立川病院　内科新入院患者数（人/年）

総合内科	569
消化器	1396
循環器	526
内分泌	70
代謝	300
腎臓	267
呼吸器	962
血液	637

神経	606
アレルギー	30
膠原病	30
感染症	600
救急	1301

（2025.4.1～2026.3.31）

1)日本内科学会指導医数は 27 名（2026.4 時点）です。
2)剖検体数は 2025 年度 9 体でした。
3)研修する連携施設には，大学病院、専門病院、地域基幹病院、地域医療密着型病院など揃え、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能と考えています。
(参考)
地域がん診療連携拠点病院（国指定）、地域医療支援病院、東京都災害拠点病院、東京都地域救急医療センター、東京都 CCU ネットワーク加盟機関、東京都脳卒中急性期医療機関、第二種感染症指定病院、東京都認知症疾患医療センター、東京都地域周産期連携病院、難病医療協力医療機関、などの行政指定を受けております。

● 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

入院患者担当の目安（基幹施設：立川病院での一例）
主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます．
専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 8～10 名程度を受持ちます。
総合内科・膠原病・感染症・救急分野等は、領域横断的に受持ちます。
また、稀な疾患の入院があった場合にも、適宜、調整し研修出来るように配慮します。

● 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．必要に応じて臨時に行うことがあります．
評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします．

● プログラム修了の基準

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下のⅰ）～vi)の修了要件を満たすこと.
ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします. その研修内容を J-OSLER に登録します. 修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し登録します。
*「研修手帳」は下記リンクを参照してください。
http://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2015/08/2015-log.pdf

ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています.
ⅲ）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で２件以上あります.
ⅳ）JMECC 受講歴が 1 回あります.
ⅴ）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります.
vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます.

当該専攻医が上記修了要件を充足していることを立川病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 か月前に立川病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設１年間以上＋連携施設１年間以上）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長することがあります.
＊「研修カリキュラム項目表」は下記リンクを参照下さい。
http://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2015/08/2015-curriculum.pdf

● 専門医申請にむけての手順

必要な書類
ⅰ）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
ⅱ）履歴書

iii）立川病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

提出方法
内科専門医資格を申請する年度の指定期日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します.

内科専門医試験
内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

● プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従います。

● プログラムの特色

本プログラムは，東京都北多摩西部二次医療圏の中心的な急性期病院である立川病院を基幹施設として，東京都、北海道、福島県、栃木県、埼玉県、神奈川県、千葉県、静岡県、石川県、京都府、福岡県にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 1 年間以上＋連携施設 1 年間以上の計３年間です.
立川病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.
基幹施設である立川病院は，東京都北多摩西部二次医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.
基幹施設と連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録するようにします．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成するようにします.
立川病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを

経験するために，通常専門研修２年目の１年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって内科専門医に求められる役割を実践します.
基幹施設である立川病院と専門研修施設群での計３年間（専攻医３年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします．少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を主担当医として経験し J-OSLER に登録するようにします.

● 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します．結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります.
カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

● 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は毎年８月と２月（予定）とに行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，立川病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

● 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

● その他

特になし.

国家公務員共済組合連合会 立川病院

内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

（2027 年度版）

整備基準 45 に対応



TACHIKAWA
HOSPITAL

立川病院　内科専門医研修プログラム　指導医マニュアル

目次

・専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
・専門研修の期間
・J-OSLER の利用方法
・逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握
・指導に難渋する専攻医の扱い
・プログラムならびに各施設における指導医の待遇
・FD 講習の出席義務
・日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用
・研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先
・その他
・別表 1　各年次到達目標

● 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

1人の担当指導医（メンター）に専攻医1人が立川病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
担当指導医は，専攻医がwebにて専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をして下さい。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行って下さい。
担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認して下さい。
担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や臨床・教育研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握して下さい。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医とSubspecialtyの上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整して下さい。
担当指導医はSubspecialty上級医と協議し，知識，技能の評価を行って下さい。
担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時までに合計29症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行って下さい。

● 専門研修の期間

年次到達目標は，別表1「立川病院内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について」に示すとおりです。
担当指導医は，臨床・教育研修センターと協働して，3か月ごとにJ-OSLERにて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医によるJ-OSLERへの記入を促して下さい。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促して下さい。
担当指導医は，臨床・教育研修センターと協働して，6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促して下さい。また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促して下さい。
担当指導医は，臨床・教育研修センターと協働して，6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡して下さい。
担当指導医は，臨床・教育研修センターと協働して，毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価，ならびに360度評価を行って下さい。評価終了後，1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導して下さい。2回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促して下さい。

担当指導医はSubspecialtyの上級医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価を行って下さい。
J-OSLERでの専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行って下さい。
主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医にJ-OSLERでの当該症例登録の削除，修正などを指導して下さい。

● J-OSLERの利用方法

専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる360度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全29症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と臨床・教育研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
担当指導医は，J-OSLERを用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します。

● 逆評価とJ-OSLERを用いた指導医の指導状況把握

専攻医によるJ-OSLERを用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき，立川病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

● 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて，臨時（毎年8月と2月とに予定の他に）で，J-OSLERを用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に立川病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

● プログラムならびに各施設における指導医の待遇

立川病院給与規定によります.

● FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います。

● 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し，形成的に指導します.

● 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

● その他

特になし.

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

補足

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は 41 疾患群であるが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
①総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から 1 例ずつ計 2
例提出する。
②消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
③内分泌と代謝：それぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例）「内分泌」2 例＋「代謝」1 例、「内分泌」1 例＋「代謝」2 例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大 60 症例を上限とし、病歴要約への適用については最大 14 症例を上限とする。